

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	玉島 健二
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

①授業 (旧「現代社会と女性」) そのものは予定通り実施できた。また、授業評価アンケートの自由記述欄では、「様々な外部講師の話をお聴くことができて良かった」とか、「将来に役立つ授業であった」など、肯定的な意見が多くあった。
 ②授業評価アンケートの「全体的な満足度」は、ビジネス・医療秘書コースにおいて「3.8」と、他の学科・コースよりも低かった。評価が低い原因は不明であるが、授業時間帯が夕方であること、帰りのバスが混雑すること等、授業の内容以外の部分で評価が低くなっている可能性が考えられる。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

①全体的な満足度を引き上げられるように、指導内容や運営方法を工夫改善する。
 ②「初年次セミナー」において、アクティブラーニングが取り入れられるように努力する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

①できる限り社会に出てから役に立つ授業や内容、生き方について考える授業を展開する。
 ②そのために必要な内容や外部講師を招へいし、満足度アップに努める。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①「初年次セミナー」 (旧「現代社会と女性」) については、「全体的な満足度」が栄養士コース4.2、ビジネス・医療秘書コース4.5、幼児教育学科4.2と、前年度を0.3ポイント上回った。また、「初年次セミナー」においては、SDGsを考える回で4~5名で班構成とする、グループワーク (アクティブラーニング) を初めて導入し、一方的に聴くだけの授業から脱却することができた。
 ②初めての開講となった、「長崎観光概論」は受講者がわずか3名であり、「全体的な満足度」は4.7と高かった。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
長崎観光概論	21L	4.7	4.3	4.3	4.3	30.0分	4.7
初年次セミナー	22S	4.2	4.3	4.2	4.2	24.0分	4.2
初年次セミナー	22L	4.5	4.6	4.8	4.6	30.0分	4.5
初年次セミナー	22Y	4.3	4.2	4.3	4.3	28.8分	4.2

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
長崎観光概論	21L	選択	3	86.7	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
初年次セミナー	22S	必修	24	84.2	2	8.3%	17	70.8%	5	20.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
初年次セミナー	22L	必修	17	80.7	1	5.6%	16	88.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.6%
初年次セミナー	22Y	必修	86	82.9	7	8.1%	66	76.7%	12	14.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

①アクティブラーニング
 「初年次セミナー」においてSDGsを考えるグループワークを実施した。「長崎観光概論」では学外活動を3回取り入れ、その後は各自がレポート作成に取り組む授業構成とした。
 ②オフィスアワー
 実施していない。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ①「初年次セミナー」
令和4年度とほぼ同様の授業構成とし、大きな変更はない。
- ②「長崎観光概論」
学外におけるフィールドワークを取り入れながら、学生が主体的に学修する授業構成としたい。

栄養士スキルアップ特講	21S	選択	19	63.6	2	10.5%	2	10.5%	2	10.5%	7	36.8%	5	26.3%	1	5.3%
食品加工学実習	21S	選択	4	89.8	3	75.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	21S	選択	22	77.2	4	18.2%	7	31.8%	3	13.6%	8	36.4%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅰ	21S	選択	22	74.2	1	4.5%	7	31.8%	8	36.4%	6	27.3%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅱ	21S	選択	22	76.9	4	18.2%	4	18.2%	9	40.9%	5	22.7%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	21S	必修	5	86.0	1	20.0%	4	80.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの食と栄養	21Y	選択	92	81.4	15	16.3%	45	48.9%	25	27.2%	7	7.6%	0	0.0%	0	0.0%
長崎食育学	22S	必修	24	82.8	1	4.2%	19	79.2%	1	4.2%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
応用栄養学実習	22S	選択	24	81.9	3	12.5%	12	50.0%	8	33.3%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
栄養教育指導論実習Ⅰ	22S	選択	24	73.9	0	0.0%	7	29.2%	9	37.5%	8	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
給食経営管理論実習Ⅰ	22S	選択	24	76.8	0	0.0%	11	45.8%	9	37.5%	4	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	22S	必修	7	91.4	6	85.7%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・実習系の科目については、計画的に実施することができた。講義を中心とする「給食経営管理論」についても「大量調理施設衛生管理マニュアル」に関する部分で一部学生に説明させる場面を作り、主体的に学習に臨む姿勢を促した。
- ・実習の最後にKJ法を応用して、すべての学生が自ら「何を学んだか」「どんなことが身についたか」を考える機会を設けた。グループでまとめて発表することで、反省点や授業の成果を共有することができた。
- ・定期試験で苦慮する学生には、個別に指導対応を行った。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ルーブリックを使っての評価実践と評価基準等の見直しを行う。
- リアクションペーパーや確認テストなどを活用して個々の学生の理解度を把握しながら授業を行う。
- eラーニングを進める環境整備を行い、学生の主体的な学びを支援する。
- それぞれの授業で、「場の設定」「自己決定」「自己評価」「個に応じた指導」の工夫を重ねていく。

令和 4 年 後 期	授業評価報告書	氏名	桑原 真美
------------	---------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

学生の学習意欲を向上させることが重要課題である。また学生の基礎学力の向上を目的としてコース内で改善策の検討をしなければならない。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

学生自身の日頃の学習意欲の向上と基礎学力の向上を図ることで、授業評価アンケートにおける学習意欲と理解度の評価の向上を目指す。
食品衛生学実験については、学生の理解度の向上を目指す。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1年生へ向けてはスタートアップセミナーと称した時間を毎週設け、前期は数学や漢字等のリメディアル教育、後期は前期履修科目の復習を実施した。食品衛生学実験については導入部分と実験方法の説明をより丁寧に行うことで学生がレポート作成を行いやすくなる工夫をした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1年生については前期からスタートアップセミナーを実施している。スタートアップセミナーの成果として、基礎学力が向上したとは言い難いが、学習意欲の向上には寄与したものと考えられる。実際に授業評価アンケートにおいても1年生の学習意欲は4.5以上と高い。理解度については食品衛生学実験が4.2であり他の科目と比較してやや低い傾向にある。しかしながら、成績評価においては84%の学生がA以上である。その要因として全体的にレポート評価の点数が高い傾向にあったことが挙げられる。
2年生の科目である公衆栄養学については学生の理解度が4.3であるにも関わらず、成績評価は60%以上の学生がCであった。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
栄養士スキルアップ特講	21S	4.4	4.4	4.3	4.3	80.0分	4.3
食品加工学実習	21S	4.8	5.0	4.8	4.8	22.5分	4.8
公衆栄養学	21S	4.5	4.5	4.4	4.3	49.1分	4.5
学外実習総合演習	21S	4.6	4.5	4.6	4.5	82.9分	4.5
学外実習 I	21S	4.5	4.5	4.6	4.6	87.1分	4.5
学外実習 II	21S	4.5	4.6	4.6	4.5	84.3分	4.5
ゼミナール	21S	5.0	5.0	5.0	5.0	75.0分	4.7
長崎食育学	22S	4.3	4.5	4.5	4.6	22.8分	4.2
食品衛生学実験	22S	4.5	4.7	4.6	4.2	106.8分	4.5
栄養学Ⅱ (ライフステージと栄養)	22S	4.5	4.7	4.7	4.5	74.4分	4.6
プレゼミナール	22S	4.2	4.2	4.5	4.5	15.0分	4.2

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	21S	選択	19	63.6	2	10.5%	2	10.5%	2	10.5%	7	36.8%	5	26.3%	1	5.3%
食品加工学実習	21S	選択	4	89.8	3	75.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
公衆栄養学	21S	必修	23	71.0	3	13.0%	1	4.3%	5	21.7%	14	60.9%	0	0.0%	0	0.0%

学外実習総合演習	21S	選択	22	77.2	4	18.2%	7	31.8%	3	13.6%	8	36.4%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習 I	21S	選択	22	74.2	1	4.5%	7	31.8%	8	36.4%	6	27.3%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習 II	21S	選択	22	76.9	4	18.2%	4	18.2%	9	40.9%	5	22.7%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	21S	必修	6	89.2	4	66.7%	2	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
長崎食育学	22S	必修	24	82.8	1	4.2%	19	79.2%	1	4.2%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
食品衛生学実験	22S	選択	24	87.5	9	37.5%	11	45.8%	2	8.3%	2	8.3%	0	0.0%	0	0.0%
栄養学Ⅱ（ライフステージと栄養）	22S	選択	24	77.8	7	29.2%	2	8.3%	8	33.3%	7	29.2%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	22S	必修	5	88.0	4	80.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

食品衛生学実験にて、実験結果と考察についてのプレゼンテーションを実施。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度は公衆栄養学の成績評価の底上げを図る。
今年度実施したスタートアップセミナーと食品衛生学実験での取り組みは継続する。

令和 4 年 後 期	授業評価報告書	氏名	古賀 克彦
------------	---------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

- ① アクティブラーニングの導入 (すべての科目において)。
- ② 栄養士実力認定試験成績向上 (臨床栄養学、栄養教育指導論講義)。
- ③ 学外実習の評価向上。
- ④ 卒業研究の満足度向上。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ① アクティブラーニングの導入 (すべての科目において)。
- ② 栄養士実力認定試験成績向上 (臨床栄養学、栄養教育指導論講義)。
- ③ 学外実習の評価向上。
- ④ 卒業研究の満足度向上。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ① 講義科目においてアクティブラーニングの導入。
- ② 授業中に栄養士実力認定試験頻出分野の詳細な説明の実施及び、定期試験への栄養士実力認定試験形式の問題の導入。
- ③ 学外実習総合演習での指導の強化。
- ④ 各学生に応じた対応や面談の実施。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- ① 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学生間で取り組むアクティブラーニングの導入は出来なかった。
- ② 試験頻出分野の詳細な説明の実施及び、定期試験への実力認定試験形式の問題の導入を昨年度より多く行ったが、該当科目の実力認定試験の結果は昨年度と同程度で、改善は見られなかった。
- ③ 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で学外実習Ⅰは中止となった。実施した学外実習Ⅱにおける実習先の評価は、昨年度より悪化した。
- ④ 卒業研究の満足度は4.8点 (5点満点) と高い結果となった。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
栄養士スキルアップ特講	21S	4.4	4.4	4.3	4.3	80.0分	4.3
食品加工学実習	21S	4.8	5.0	4.8	4.8	22.5分	4.8
学外実習総合演習	21S	4.6	4.5	4.6	4.5	82.9分	4.5
学外実習Ⅰ	21S	4.5	4.5	4.6	4.6	87.1分	4.5
学外実習Ⅱ	21S	4.5	4.6	4.6	4.5	84.3分	4.5
ゼミナール	21S	4.8	4.8	4.8	4.8	52.5分	4.8
長崎食育学	22S	4.3	4.5	4.5	4.6	22.8分	4.2
臨床栄養学Ⅰ (病態の理論)	22S	4.1	4.3	4.3	4.3	45.0分	4.2
栄養教育指導論Ⅱ	22S	4.2	4.3	4.3	4.3	44.3分	4.3
プレゼミナール	22S	4.3	4.7	4.4	4.6	4.3分	4.7

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	21S	選択	19	63.6	2	10.5%	2	10.5%	2	10.5%	7	36.8%	5	26.3%	1	5.3%
食品加工学実習	21S	選択	4	89.8	3	75.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	21S	選択	22	77.2	4	18.2%	7	31.8%	3	13.6%	8	36.4%	0	0.0%	0	0.0%

学外実習 I	21S	選択	22	74.2	1	4.5%	7	31.8%	8	36.4%	6	27.3%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習 II	21S	選択	22	76.9	4	18.2%	4	18.2%	9	40.9%	5	22.7%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	21S	必修	6	90.0	4	66.7%	2	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
長崎食育学	22S	必修	24	82.8	1	4.2%	19	79.2%	1	4.2%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
臨床栄養学 I (病態の理論)	22S	必修	24	68.4	5	20.0%	2	8.0%	3	12.0%	14	56.0%	1	4.0%	0	0.0%
栄養教育指導論 II	22S	選択	24	74.1	3	12.5%	7	29.2%	7	29.2%	6	25.0%	1	4.2%	0	0.0%
プレゼミナール	22S	必修	7	90.0	6	85.7%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングに関しては、後期は実習科目が無かったため実施できなかった。来年度以降は講義科目においてアクティブラーニング科目を導入していきたい。
 またオフィスアワーに関しては基本的に開いている時間であればいつでも訪問してよい形式で実施した。
 質問に関しては2年生は学外実習（実習先からの課題対応含む）や定期試験についての相談が多く、1年生に関しては献立作成や定期試験についての相談が多かった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ① アクティブラーニングの導入（導入可能な科目について）。
- ② 栄養士実力認定試験成績向上（臨床栄養学、栄養教育指導論講義）。
- ③ 学外実習の評価向上。
- ④ 卒業研究の満足度向上。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

学生アンケートの結果は4.2~5.0であり、特に問題はなかったと思われる。
 (1) 秘書実務1では、反転授業を行ったが、学生は主体的に授業に参加し、授業後の調査の結果、この授業法に多くの学生が好感を持っていた。十分な演習の時間を確保するためにも、今後は採用する単元を増やして行きたい。しかし、一人の学生がスマートフォンのセキュリティ上動画を視聴できなかったと答えていたので、今後は事前にそのような場合の対応策を示した上で行わなければならない。
 (2) ゼミナールでは、連絡もスムーズに行え、学生の評価も全て5であり、今後も連絡にはグループメールを使用していきたい。
 (3) マナー学では、学生アンケートの全項目で前年度に対して0.2~0.4ポイント上昇しており、次年度も今年度の方法を継続していきたい。
 リアクションペーパーに書かれた質問には、対面授業時、遠隔授業時共に次の授業で答えるようにした。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

(1) 秘書実務では、授業内容の定着を図り、十分な演習時間の確保のため、当日担当秘書を継続し、併せて反転授業を行う。
 (2) ゼミナールでは、学生が計画的に主体的に活動できるように支援する。
 (3) 学習意欲の向上のため、授業の初めに当日の学びの目的を今以上にしっかりと伝え、授業内容に興味を持ってもらえるようにする。

3. 今年度の活動内容・方法 (D0 : 実行)

(1) 秘書実務1では、3単元で反転授業を行った。
 (2) ゼミナールでは、コースの教員で協力して指導し、機会を見て声掛けをし、困ったときに尋ねやすい環境を作った。
 (3) マナー学では、予習→授業→リアクションペーパーの流れで、授業で扱うマナーについて考える方法を取った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生の授業評価アンケートの結果は、4.1~4.9であり、特に問題はなかったと思われる。
 (1) 秘書実務1では、教員の教え方は4.9、全体的な満足度4.8と学生の評価が高く、授業外学習時間も昨年比34分アップしていた。反転授業の成果と思われる。
 (2) 学生は悩みながらも活動を進め、発表会で学びの成果を発表できたことで、達成感を感じていた。
 (2) SDGsの観点から、課題とリアクションペーパーをweb提出とした結果、毎回の授業時に促したにも関わらず、提出忘れが多かった。提出されたペーパーの内容も学生間で大きく差があり、学ぶ姿勢の違いが身られた。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
キャリアアップセミナー2	21L	4.5	4.5	4.4		4.4		65.0分	4.3
秘書実務1	22L	4.8	4.9	4.8		4.8		86.5分	4.8
キャリアアップセミナー1	22L	4.6	4.7	4.8		4.7		62.0分	4.7
ライフプランニング	22L	4.6	4.6	4.9		4.6		38.0分	4.5
ゼミナール	22L	4.7	4.6	4.8		4.7		106.9分	4.6
マナー学	22Y	4.2	4.1	4.1		4.1		53.8分	4.0

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
キャリアアップセミナー2	21L	必修	24	85.2	11	45.8%	6	25.0%	6	25.0%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
秘書実務1	22L	必修	17	85.7	5	29.4%	10	58.8%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

キャリアアップセミナー 1	22L	必修	17	88.5	11	64.7%	5	29.4%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ライフプランニング	22L	必修	17	92.1	13	76.5%	4	23.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
マナー学	22Y	必修	86	80.0	23	26.7%	29	33.7%	21	24.4%	10	11.6%	0	0.0%	3	3.5%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

担当する全ての科目で、必要に応じてグループワーク、反転授業等のアクティブラーニングを行った。

オフィスアワーは、随時訪問可としていたので、時間に関係なく検定に関する質問等の訪問があった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1) 秘書実務1は、今年度同様反転授業を実施し、学生の満足度の高さをキープする。

(2) 今年度同様、学生が主体的に活動できるように支援する。

(3) マナー学では、リアクションペーパーの回収率を上げるため、web提出を止め、紙で提出させる。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	濱口 なぎさ
--------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1) 授業評価アンケートの結果から、演習科目については授業の内容やレベルは、学生の学習意欲や理解度も4.3~4.6であり、成績評価の分布からも目標とする成果を達成できたと考えている。特に「オフィス情報演習」で、学生自身が考えて取り組む課題を実施したことで学生の学習意欲の向上が見受けられたことから、今年度も同様の課題に取り組ませる。

2) 検定試験については、日商PC検定(文書作成)3級は2年生の受験者全員が合格し、2級の合格者も複数出た。また、1年生の受験者も前年度より増えた。しかし、卒業前の2月に駆け込みで受験する学生が毎年いることか

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1) 基本的なパソコンの操作法の定着とともに、応用的な課題への取り組みや自ら考えて取り組む課題を増やし、学生の実践力を強化する。

2) 学生が客観的に自分の実力を確認し、就職活動でのアピール材料とするためにも、早い段階での検定試験の受験を働きかける。特に2年生は、実践型教育プログラムの期間を活用した、検定上位級への挑戦を促し、意欲のある学生に対する個別指導を充実させる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1) 「オフィス情報演習」では、学生自身が考えて取り組む課題を多く提示し、自主的かつ能動的に取り組むように指導する。また、グループ活動によって、チームで課題解決を行う課題にも取り組ませる。「ビジネス文書作成2」は応用する力に伸ばすことを心がける。題によってリアクションペーパーの提出、スキルチェック、小テストを行い各学生の理解度や苦手とする内容を確認し、適切なフィードバックを行う。

2) 「ビジネス文書作成2」では、学期末に日商PC検定試験を受験し、合格できるような受験対策も行う。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1) 「オフィス情報演習」では、複数のアプリを活用した素材作成、レイアウトやデザイン、ドキュメントの内容を全て自分で考える課題、グループでイベントの企画を考え発表する課題などを提示し、自主的かつ能動的に取り組むよう指導することができた。授業評価アンケートの結果でも内容やレベル、教員の教え方、学生の学習意欲でも高い評価を得ていることから、今年度の目標は達成できたと考える。

2) 「ビジネス文書作成2」を受講した1年生の約60%が学期末に日商PC検定試験を受験し、全員合格した。受験直前に受験対策講座を実施したことも功を奏したと感じている。一方で2年生で2名が卒業前の駆け込み受験となり、複数回受験しての合格となっている。また、上位級やMOS試験の受験を希望するも受験に至らなかった学生も多く、実践型教育プログラムの期間を利用した計画的な検定試験への挑戦はできなかったことは残念である。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
オフィス情報演習	21L	4.8	4.8	8	33.3%	13	54.2%	55.0分	4.7
キャリアアップセミナー2	21L	4.5	4.5	11	45.8%	6	25.0%	65.0分	4.3
ビジネス文書作成2	22L	4.8	4.9	7	41.2%	3	17.6%	58.2分	4.8
キャリアアップセミナー1	22L	4.6	4.7	11	64.7%	5	29.4%	62.0分	4.7
ライフプランニング	22L	4.6	4.6	13	76.5%	4	23.5%	38.0分	4.5
ゼミナール	22L	4.7	4.6	13	76.5%	4	23.5%	106.9分	4.6

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
オフィス情報演習	21L	必修	24	86.0	8	33.3%	13	54.2%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー2	21L	必修	24	85.2	11	45.8%	6	25.0%	6	25.0%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネス文書作成2	22L	必修	17	83.8	7	41.2%	7	41.2%	3	17.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー1	22L	必修	17	88.5	11	64.7%	5	29.4%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ライフプランニング	22L	必修	17	92.1	13	76.5%	4	23.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「オフィス情報演習」ではグループディスカッションとプレゼンテーションを行った。「ビジネス文書作成2」では、リアクションペーパーを活用し、学生の習熟度把握に努めた。ゼミナールでは、グループディスカッションを行った。
オフィスアワーでは欠席した学生のフォローや面接練習、個人的な相談などの対応を行った。 ▽

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1) 基本的なパソコンの操作法の定着とともに、学生自身が考えて課題を解決するような応用的な課題への取り組みを増やし、実践力を強化する。特に、ビジネス用語や慣用表現については辞典等を使用して意味を確認する習慣を根付かせたい。リアクションペーパーを活用し、学生の理解度を確認しながら知識や技能の定着を図る方法は継続する。

2) 2年生が実践型教育プログラムの期間を活用し、計画的に検定上位級へ挑戦し、客観的に自分の実力を確認し向上させることで自信を付けさせたい。試験的に曜日や時間を定めた受験指導の時間を設け、学生の検定受験への意欲継続を図りたい。 ▽

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1) 前年度後期の1年生の社会心理学では、専門用語の説明から名称を選択する語群問題は殆ど正解していたが、○×問題や用語を説明する記述問題はあまり出来ていなかった。
 2) 前年度後期の1年生のビジネスデータ活用2では、エクセルのグラフ問題は正解していたが、関数問題やピボットテーブルでは学生の理解度に二極分化の傾向が強く見られた。
 3) 前年度後期の1年生のライフプランニングは、まだ開講されていない。
 4) 前年度後期の1年生のキャリアアップセミナーでは、履歴書で自己PR出来るようになった。2年生は企業交流会の人气が高かったが、特に模擬面接での返答に課題が残った。
 5) 前年度後期の1年生のゼミナールでは、共通のテーマとして長崎県をアピールするPR動画を作成した。初めての試みだったが、全員30秒のオリジナルの作品を発表できた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1) 今年度の社会心理学では、専門用語について、身近な例を数多く取り入れて、プリントとビデオ教材を使って説明する。また、質問をしてアクティブラーニングの手法を取り入れる。
 2) 今年度のビジネスデータ活用2では、前期に開講したビジネスデータ活用1の内容をよく復習して、検定試験2級の合格指導に取り組む。関数に力を入れて丁寧に説明していく。
 3) 今年度のライフプランニングでは、イグアスの外部講師の先生をお招きして、自分の価値観や強み、パートナーシップ、人生設計について、自由にグループディスカッションをする。
 4) 今年度のキャリアアップセミナーでは、1年生は多彩なキャリアカウンセラーによるセミナーを行い、2年生は実践型教育プログラムで社会人として必要な能力の修得に努める。
 5) 今年度のゼミナールでは、長崎県の観光地や飲食店、SDGsなどをテーマとした1分間のPR動画を作成して、プレゼンする。印象的でインパクトのあるオリジナルの作品を作る。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1) 社会心理学では、授業の最初に前回の授業の重要な専門用語について質問したり、授業の最後にテーマに関する自分の心理学の日常的な事例を提出させて理解度を高めた。
 2) ビジネスデータ活用2では、授業の前半はテキストに沿ってエクセルの機能と操作方法を説明し、授業の後半では独力で練習問題に取り組む授業構成として理解度を高めた。
 3) ライフプランニングでは、自己分析や人生設計について、学生に質問したり、グループディスカッションの結果を発表させたりして、全ての授業でアクティブラーニングを取り入れた。
 4) キャリアアップセミナーでは、1年生は自己PR動画の作成を行った。2年生は実践型教育プログラムで就活・検定対策・アルバイト・ボランティアなどを行い、発表会でプレゼンした。
 5) ゼミナールでは、インパクトのある動画にするために、構成、アングル、音声と文字の説明、BGM、ストーリー性、転換の発注に工夫をするように助言して、発表会でプレゼンした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1) 社会心理学のアンケートは4.6から4.8で高評価だった。平均点は85.9点で、SとAの割合は88.8%と高得点だった。、記述問題の理解力や構成力、表現力を強化する必要がある。
 2) ビジネスデータ活用2のアンケートは4.3から4.7で高評価だった。平均点は80.0点で、SとAの割合は64.7%だった。説明の理解力、関数、応用力が低い学生の支援が必要である。
 3) ライフプランニングのアンケートは4.6から4.9で高評価だった。平均点は92.1点で、SとAの割合は90%と高得点だった。目標の具現化、根拠に基づく論理的思考を磨く必要がある。
 4) キャリアアップセミナーのアンケートは4.4から4.8で高評価だった。平均点は1年生が88.5点で2年生が85.2点だった。面接力、自己PR、表現力、自己主張の強化が必要である。
 5) ゼミナールのアンケートは4.6から4.8で高評価だった。実践型教育プログラムでは、目標とする社会人基礎力とその方法、成果の根拠を明確に発表出来るようにする必要がある。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
キャリアアップセミナー2	21L	4.5	4.5	4.4	4.4	65.0分	4.3
ビジネスデータ活用2	22L	4.4	4.6	4.7	4.3	86.3分	4.6
社会心理学	22L	4.8	4.6	4.8	4.7	81.2分	4.6
キャリアアップセミナー1	22L	4.6	4.7	4.8	4.7	62.0分	4.7
ライフプランニング	22L	4.6	4.6	4.9	4.6	38.0分	4.5
ゼミナール	22L	4.7	4.6	4.8	4.7	106.9分	4.6
評 価							

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
キャリアアップセミナー 2	21L	必修	24	85.2	11	45.8%	6	25.0%	6	25.0%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネスデータ活用2	22L	必修	17	80.0	4	23.5%	7	41.2%	2	11.8%	4	23.5%	0	0.0%	0	0.0%
社会心理学	22L	必修	17	85.9	8	44.4%	8	44.4%	1	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.6%
キャリアアップセミナー 1	22L	必修	17	88.5	11	64.7%	5	29.4%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ライフプランニング	22L	必修	17	92.1	13	76.5%	4	23.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- 1) 社会心理学では、自由研究として、心理学の専門用語に関する文献研究を行い、その日常的な活用法などについてプレゼンテーションをしている。
- 2) ビジネスデータ活用2では、自由研究として、実際のデータを用いて各種のグラフを作成し、グラフの解釈についてプレゼンテーションをしている。
- 3) ライフプランニングでは、自己分析や人生設計について、毎回の授業でグループディスカッション、グループワークを行い、グループ発表をしている。
- 4) キャリアアップセミナーでは、就職の自己PRや入社後の抱負について、グループディスカッションや中間報告会、プレゼンテーション大会を行っている。
- 5) ゼミナールでは、地域社会に貢献するようなPR動画の作成について、グループディスカッションや中間報告会、プレゼンテーション大会を行っている。
- 6) オフィスアワーに訪問する学生はいないが、それ以外の時間にパソコンの授業に関する質問が週に数件あるため、パソコンを用いて操作方法を説明している。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- 1) 次年度の社会心理学では、授業で学んだ社会心理学に関する心の機能や法則を、日常生活での悩みや意思決定に活用できるように理解力と応用力を高めていきたい。
- 2) 次年度のビジネスデータ活用2では、エクセルを用いて基本的なアンケートの集計を行い、実用的で利便性と有用性の高い図表の作成ができるように支援していきたい。
- 3) 次年度のライフプランニングでは、毎回の授業でアクティブラーニングの手法を取り入れ、学習意欲や問題解決力の修得を重視した授業計画を継続して実施していきたい。
- 4) 次年度のキャリアアップセミナーでは、就職支援のセミナーと実践型教育プログラムを通して、自己PRと自己主張、今後の抱負と意思決定ができるように支援していきたい。
- 5) 次年度のゼミナールでは、自分や社会の日常的・将来的な問題の発見と解決について、根拠に基づいて論理的に思考し、説得力と貢献力のある人材を育成していきたい。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	森 弘行
--------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

・数的理解では、学生による課題の解説により、より理解が深まったというアンケート結果もあったが、教科書の例題を応用できず、説明できない学生も多い。授業外学習時間も増えず、満足度も3.5から3.0へ低下した。
 ・ウェブデザインについて、作成上の注意点やポイントをWebで提示したり口頭で何度も指示を行ったが、自己流で進める学生おり、その対策に時間をとられた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

・数的理解では反転授業を取り入れる。
 ・ウェブデザインでは、ファイルやフォルダの関係が重要となるため、改めて指導を行うとともに各学生の進捗度を可視化する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

・数的理解について、引き続き学生による解説授業を取り入れる。教科書だけではなく身近な事例を取り上げて活用する。
 ・ウェブデザインでは、全学生のサイトを縮小表示して一覧できるウェブサイトを作成した。合わせて間違いやすいチェックポイントをウェブサイト上で提示した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・数的理解の授業外学習時間は若干増え、理解度は3.0から3.8、満足度は3.9へ回復した。
 ・ウェブデザインでもアンケート結果は改善している。授業外学習時間は、後半の作品制作にかけた時間が反映しているように感じられる。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
キャリアアップセミナー2	21L	4.5	4.5	4.4	4.4	65.0分	4.3
数的理解	22L	4.1	4.0	4.5	3.8	95.6分	3.9
ウェブデザイン	22L	4.3	4.1	4.7	4.3	114.7分	4.2
キャリアアップセミナー1	22L	4.6	4.7	4.8	4.7	62.0分	4.7
ライフプランニング	22L	4.6	4.6	4.9	4.6	38.0分	4.5
介護・救急法	22L	4.5	4.8	5.0	4.6	26.3分	4.6
ゼミナール	22L	4.7	4.6	4.8	4.7	106.9分	4.6

科 目 名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
キャリアアップセミナー2	21L	必修	24	85.2	11	45.8%	6	25.0%	6	25.0%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
数的理解	22L	必修	17	68.8	1	5.9%	1	5.9%	5	29.4%	10	58.8%	0	0.0%	0	0.0%
ウェブデザイン	22L	必修	17	80.5	4	23.5%	6	35.3%	3	17.6%	4	23.5%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー1	22L	必修	17	88.5	11	64.7%	5	29.4%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ライフプランニング	22L	必修	17	92.1	13	76.5%	4	23.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・ オフィスアワー時間帯の利用はほとんどないが、随時対応。
- ・ 数的理解では反転授業を実施。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ・ 反転授業の実施方法を充実し、学生自身が学ぶ習慣を身につける。

					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
社会福祉概論	21S	選択	23	82.7	6	26.1%	7	30.4%	8	34.8%	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%
特別な教育的ニーズの理解とその支援	21Y	必修	94	84.9	32	34.4%	38	40.9%	17	18.3%	6	6.5%	0	0.0%	0	0.0%
社会福祉	21Y	必修	94	85.1	31	33.0%	46	48.9%	11	11.7%	6	6.4%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	21Y	選択	92	88.7	57	62.0%	16	17.4%	8	8.7%	11	12.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	21Y	選択	92	79.4	12	13.0%	39	42.4%	27	29.3%	14	15.2%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	21Y	選択	92	77.9	8	8.7%	46	50.0%	30	32.6%	5	5.4%	0	0.0%	1	1.1%
保育・教職実践演習（幼）	21Y	選択	92	89.3	52	56.5%	24	26.1%	11	12.0%	5	5.4%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	21Y	必修	9	89.9	5	55.6%	4	44.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
社会的養護Ⅱ	22Y	選択	86	83.2	23	26.7%	40	46.5%	17	19.8%	6	7.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅰ	22Y	選択	86	83.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

〈アクティブラーニングについて〉

今年度の演習系の授業においても、アクティブラーニングの実施に一部影響はあったものの、授業形態の工夫などで対応できた。講義系の授業についても、一部導入しているが、さらに充実させたい。

〈オフィスアワーについて〉

効果的に活用できている。学生への周知徹底をさらに進め、よりスムーズな学生支援の実施につなげられるようにしていきたい。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上

担当して2年目となる「特別な教育的ニーズの理解とその支援」の科目においては、授業回数の変更もあり、前年度よりさらに講義と演習のバランスを考える必要が出てくる。その他の科目についても、アクティブラーニングの手法を活かしつつ、学生の意欲的・主体的な取り組みを促す授業実践を目標としたい。

2. 「保育実習Ⅲ」選択学生への対応の充実と、実習指導内容の充実と連携強化

①「保育実習Ⅲ」選択学生への対応充実と体制整備を行いつつ、前年度に引き続き、②各授業における、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、施設職員との連携の強化、③学生の関心・意欲や個別に異なる課題にこたえる個別支援・指導の実施。以上を目標とする。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

①ゼミナール
 附属幼稚園等での実践を積極的に組み入れて、保育者としての意識をいっそう高められるような協働的学修の場としたい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

①ゼミナール
 班別での協働的学修でパソコン習熟度による不和が生じないように配慮し、できるかぎり学生の主体性に任せて進めたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

①ゼミナール
 大きくは2班 (5名、5名) に分かれて活動した。1つの班 (5名) は主として触覚と聴覚に関わる手作りおもちゃを共同で製作し、保育所での実践を結果的に2名で行い、分担して報告書をまとめることができた。もう1つの班 (5名) は各自がパネルシアターやエプロンシアター等の「シアター」を個々に製作し、実習先を利用して、その実践を行った。結果的には、製作や実践に各自の意欲の差が生じ、したがって、報告書をまとめる段階で1名に他の4名が依存する形になり、個々の内容にもかなりの差が生じてしまった。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①ゼミナール
 班別での協働的学修・作業で、パソコン習熟度の差による不和が1つの班に生じた。ゼミ全体としては、ゼミナール報告集の原稿作成及びゼミナール発表会を支障なく進められた。一方、コロナ禍の影響かどうかわからないが、共同作業に対する意欲があまり見られなかった。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度							
				人	%	人	%			人	%					
保育実習指導Ⅱ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	49.7分	4.4							
保育実習Ⅱ	21Y	4.4	4.4	4.5	4.5	4.5	4.5	74.1分	4.5							
教育実習 (事前・事後指導1単位含む) (幼)	21Y	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	70.6分	4.5							
保育・教職実践演習 (幼)	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	45.5分	4.4							
ゼミナール	21Y	4.3	3.9	4.1	4.1	4.1	4.1	85.7分	4.3							
保育実習指導Ⅰ	22Y	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5	4.5	62.1分	4.4							
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習指導Ⅱ	21Y	選択	92	88.7	57	62.0%	16	17.4%	8	8.7%	11	12.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	21Y	選択	92	79.4	12	13.0%	39	42.4%	27	29.3%	14	15.2%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習 (事前・事後指導1単位含む) (幼)	21Y	選択	92	77.9	8	8.7%	46	50.0%	30	32.6%	5	5.4%	0	0.0%	1	1.1%
保育・教職実践演習 (幼)	21Y	選択	92	89.3	52	56.5%	24	26.1%	11	12.0%	5	5.4%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	21Y	必修	10	81.2	3	30.0%	3	30.0%	3	30.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅰ	22Y	選択	86	81.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

ゼミナールでは、各班が研究テーマを設定して保育実践を行い、まとめることができた。各班でスライドを作成し、そのスライドに基づいて発表することができた。

学生は特にオフィスアワーを利用するというのではなく、随時、研究室を訪ねてきた。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度では、ゼミナールのテーマを「子どもとICT」に変更するのに伴い、原則的に個人研究とし、学生個人の責任で学修を進めていくという方法で実施したい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度の課題と目標は「、学生が主体的に学びを深めれる環境づくり」としていた。学生が主体的に学べるようアクティブラーニングやICT教育を積極的に用いた。しかし、パソコンやタブレットなどのICT教育に活用できる機器に制限があったことが課題である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

学生が活用できる範囲のICT機器にて授業の計画を行い、学生の理解度を深める。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

新型コロナウイルスの影響により、演習科目では身体接触が伴う幼児期の運動遊びなどに制限が出たが、できる限り学生の学びが具体化できる手指消毒液や換気など、感染対策をした上で授業を行った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度のオムニバスを除いた担当科目の授業評価アンケートでは、5点満点中、4.4以上の評価であり、前期の全体的な満足度より0.2を上回った。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育実習指導Ⅱ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	49.7分	4.4
保育実習Ⅱ	21Y	4.4	4.4	4.5	4.5	74.1分	4.5
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	21Y	4.5	4.5	4.4	4.4	70.6分	4.5
保育・教職実践演習（幼）	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	45.5分	4.4
ゼミナール	21Y	4.8	4.8	4.6	4.8	30.0分	4.8
体育講義	22Y	4.4	4.5	4.5	4.3	57.0分	4.4
ダンスセラピー論	22Y	4.6	4.7	4.7	4.5	39.3分	4.6
保育実習指導Ⅰ	22Y	4.5	4.4	4.5	4.5	62.1分	4.4

科 目 名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習指導Ⅱ	21Y	選択	92	88.7	57	62.0%	16	17.4%	8	8.7%	11	12.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	21Y	選択	92	79.4	12	13.0%	39	42.4%	27	29.3%	14	15.2%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	21Y	選択	92	77.9	8	8.7%	46	50.0%	30	32.6%	5	5.4%	0	0.0%	1	1.1%
保育・教職実践演習（幼）	21Y	選択	92	89.3	52	56.5%	24	26.1%	11	12.0%	5	5.4%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	21Y	必修	9	85.0	5	55.6%	3	33.3%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%
体育講義	22Y	選択	86	78.2	25	29.1%	20	23.3%	14	16.3%	25	29.1%	1	1.2%	0	0.0%

ダンスセラピー論	22Y	選択	57	81.8	2	3.5%	44	77.2%	10	17.5%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 I	22Y	選択	86	81.8	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

前期同様下記の内容を実施した「Google driveやformを活用し、ICT機器を通し多くの情報を収集・精査し、課題に取り組めるよう配慮した。またそれらの情報を学生自身がとりまとめ、発表し合い、その後ディスカッションにて内容を深められる環境を提供した。」

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度は担当教員が変わる為、後任者に授業の引継ぎを行う。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	大徳 朋子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

学生の理解度に合わせて講義内容を修正しながら進めていく。リアクションペーパーなどからどのくらいの理解度を得られているか、参加への意欲なども把握しながら進めていく。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

講義中には、プリントの記入やワークの取り組みといった作業を取り入れ、グループでの事例検討などの参加を含めて主体的に講義が受けられるように配慮した。教科書の説明だけでなく、できるだけ具体的なイメージを持てるように現場の様子や子どもや親とのやりとりなど例に出して説明をした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

アンケートの結果より、講義内容については一定の理解が得られたのではないかと考えている。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
心理学	21S	4.3	4.3	4.1	4.3	39.5分	4.2
心理学	21L	4.8	4.5	4.2	4.7	60.0分	4.7
子どもの理解と援助	21Y	4.3	4.3	4.2	4.2	33.6分	4.3
子どもと人間関係	22Y	4.5	4.5	4.5	4.5	55.4分	4.5

科 目 名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
心理学	21S	選択 必修	19	82.7	6	31.6%	6	31.6%	6	31.6%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%
心理学	21L	選択 必修	8	89.8	5	62.5%	3	37.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの理解と援助	21Y	選択	93	80.5	7	7.5%	50	53.8%	27	29.0%	9	9.7%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと人間関係	22Y	必修	86	75.9	11	12.8%	23	26.7%	25	29.1%	27	31.4%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義中の机間巡視などで質問をする学生もいた。個別対応にはなるが、そのような時間でのやりとりには気づきや意欲の増加などの意味合いもあると考える。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

講義中、講義後の質問や意見交換などは大切にし、より学生が授業への意欲を高めて授業参加ができるように検討していきたい。

令和 4 年 後 期	授業評価報告書	氏名	中澤 伸元
------------	---------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

残念ながらコロナで先輩たちの生き生きと楽しんで演じている発表を生で見えていない為、表現感覚、歌感覚、楽しんで身体で表現する壁にぶつかり、苦労したが、メンバーのやる気とチームワークで乗り越えることができた。
やはり、臨場感あふれる発表を生で見ているのといないのとでは、スタート時に大きな違いが生じる。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

この学年も先輩たちの発表を見ておらず、ミュージカルの知識、楽しみを感じていない学生たちなので、基本的なセリフ表現、舞台上での動き、振り付け等の行動感覚に苦労している。早く感覚を掴んでいけるよう、基礎トレーニングを行っていく。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

全面的に学生を信じて一人ひとりに必要なアドバイスを行う。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生たちがそれぞれ、自信を持てるように育てた結果、ゼミナール発表会では各自が力を出し合い、素晴らしい舞台を作り上げた。
学生にマイナスの意識を植え付けない。未来志向のポジティブ思考を植え付けていく。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
			人	%	人	%	人	%		
ゼミナール	21Y	4.5	4.3		4.5		4.5		65.0分	4.5
音楽演習	21Y	4.3	4.2		4.5		4.3		60.0分	4.3
生活と音楽	22Y	4.3	4.3		4.3		4.3		28.4分	4.3

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ゼミナール	21Y	必修	9	81.7	2	22.2%	3	33.3%	4	44.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
音楽演習	21Y	選択	9	81.7	2	22.2%	3	33.3%	4	44.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
生活と音楽	22Y	必修	86	77.9	11	12.8%	25	29.1%	41	47.7%	9	10.5%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

ゼミナールの授業がすべてアクティブラーニングそのものであり、毎回課題を見つけ、皆で話し合いながら解決に結びつけている。
オフィスアワーにとらわれず、学生からの希望によって時間を調整し、様々な相談に対応した。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

学生に自信を持たせ、楽しんで授業を受けられるような授業展開にする。
保育士として、園児に対するコミュニケーション力を植え付ける。

令和 4 年後期	授業評価報告書	氏名	中村 浩美
----------	---------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

歌唱や弾き歌いの授業及び個別レッスンでは学生の必要以上の緊張や抵抗があるため、教員と学生間の距離が少しでも縮められ信頼関係を築くことを念頭に行った。学生の性格よっての指導方法も研究し、練習の仕方を少しずつマスターして、自らの練習レベルを高めていきながら、弾けるようになったと言う事・歌えるようになったと言う事の喜びと、保育者になる気持ちが高める意識に繋げる工夫をした。学生の意見や考え・思いを随時聞くようにもした。結果学生も少しずつ心を開いて考えや思い、疑問点や改善点を話すようになってきた。全員ではないが意欲を感じられ努力する学生も見られた。、例年通り学生要望でのレッスンを授業外で行い、子どもの曲を歌う喜びや、歌唱力の向上を自分達でも感じ取る事ができていた。歌うための筋肉の使い方をはじめとした技法や、歌詞の大切さ・イメージ、各曲のポイントなどを丁寧に指導した。4.5人での歌唱と弾き歌いのグループレッスンは、聴いてる他の学生にも大変勉強になっていた。なぜ改善されたか、何が足りなかったなど、みんなで聴きあう意味も理解できていた。何度もレッスンのアポイント取りに来てとても熱心であり、とても大きな成長がみられた事は当人達は当然の事、指導者自身も大変勉強になり今後に生かして研鑽を積みたい。ただ、声量をもととない学生が悩んでいる点に於いて2年間で達成するのは難しいが、声量のみを先行せずとも歌う事の喜びを感じられる研究に取り組みたい。1年生はピアノ初心者や初心者と同等のレベルである学生が3分の2を占めていたため、実習に向けての指導強化が必要である。また、コロナ渦中の影響で人前で歌う事、弾き歌いをする事に羞恥心や抵抗がある学生が殆どであったため、表情や口の開け方、明瞭な歌詞読みのための工夫ある授業展開を研究する。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・教員として学生が成長できるための能力や個性を持ち備えている事を常に意識しながら指導する。
- ・少しの成長や達成に対しても褒めながら分析・説明をする。
- ・保育者になるための高い意識を持たせること、やる気にさせるための指導方法の工夫をする。
- ・人の前にでることへの羞恥心を軽減できるための授業展開を行う。
- ・言葉や感情や場を考慮して指導する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・コロナ感染予防に非常勤講師の先生方にも協力をして頂き、また、学生にも頻繁に感染要望への諸注意をしながら授業を行った。
- ・学生一人ひとりの個性を早く見極め、普段から声掛けを心掛けた。
- ・保育者としてだけでなく、社会人としての必要な常識を踏まえながら授業を進行させた。
- ・メンタル面強化の励みの言葉かけをした。
- ・音楽を奏でられる喜びや楽しさを感じてもらうために、その行事に見合ったディスプレイをしながらいろんなジャンルの選曲の下授業を行った。
- ・学生自身が自らの課題点や到達点を発見でき、次のステップに活かせる助言と指導を行った。
- ・自信は勇気の積み重ねであり、失敗を恐れず一歩を踏み出すメンタル面からの勇気を促した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

常に学生とのコミュニケーションを大切にしてきた。教員と学生間の距離を縮めながらお互いを知り、信頼関係を築く事で極度な緊張感を緩和させながら向き合う授業となった。しかし、一番緊張する人前での歌唱には時間を要するため、特に1年生は授業内で学生自身が羞恥心を持っていても勇気と言う積極性が感じられる授業研究に万全を期したい。ゼミでは特に教員と学生間の溝はなく、目標・到達点に近づくための指導ができたと考えられる。コロナ渦中でマスクやマウスシールドを着用しての歌唱指導には限界があった。歌唱・声楽指導に必要な不可欠な表情筋・口角アップ・ブレス・体幹を意識しての体の筋肉の使い方でも声を出すのだが、声を思い切り出せない事で改善点や良い点を学生自身が理解して継続できる事が大きな問題点であった。また、発声法に準じて楽曲を表現するための歌詞読みも、思いや考えをイメージしながら抑揚を持って発する事がなかなかできず、イメージ力が低下している学生への指導には一層の研究・工夫が必要と考える。学生達は歌う事が好きで、知っている曲は勿論初めての曲にも興味を持って受講していたのは良かった点と言える。それに関しては選曲も良かったと考える。まだ緊張感を抱き控えめになりがちである事や、自分を表現する事が苦手な昨今の学生への声かけと指導には威圧感なく行う事が課題である。また、年々ピアノ初心者が増加しているが、その学生達を始め努力の継続がなく次のピアノレッスン・歌唱・手あそび歌授業を迎える学生が非常に多くいたため、どのような指導が練習継続の強化に繋がるかも課題である。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育実習指導Ⅱ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	49.7分	4.4
保育実習Ⅱ	21Y	4.4	4.4	4.5	4.5	74.1分	4.5
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	21Y	4.5	4.5	4.4	4.4	70.6分	4.5
保育・教職実践演習(幼)	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	45.5分	4.4

ゼミナール	21Y		4.6	4.6	4.8	4.8	143.3分	4.7								
音楽演習	21Y		4.7	4.7	4.7	4.7	124.3分	4.7								
保育実習指導 I	22Y		4.5	4.4	4.5	4.5	62.1分	4.4								
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習指導 II	21Y	選択	92	88.7	57	62.0%	16	17.4%	8	8.7%	11	12.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習 II	21Y	選択	92	79.4	12	13.0%	39	42.4%	27	29.3%	14	15.2%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習 (事前・事後指導 1 単位含む) (幼)	21Y	選択	92	77.9	8	8.7%	46	50.0%	30	32.6%	5	5.4%	0	0.0%	1	1.1%
保育・教職実践演習 (幼)	21Y	選択	92	89.3	52	56.5%	24	26.1%	11	12.0%	5	5.4%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	21Y	必修	11	84.8	4	36.4%	5	45.5%	2	18.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
音楽演習	21Y	選択	10	86.1	4	40.0%	5	50.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 I	22Y	選択	86	86.1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

音楽を通じて心の悩みを打ち明ける学生を始め、音楽に関係なく悩みや不安を打ち明けて来る学生も多く、それぞれ抱えている悩みに時に教員として、時に人生の先輩として、心からの思いや考え、方法などを時間をかけながら相談にのっている。相談に来た学生も時間をかけて何度も面談をする事で心のつかえが取れたり、悩みを解決しようと言う前向きな考えを持つようになってきたりと、悩みを克服したい一心がその学生の成長に繋がっていると感じている。今後も学生の悩みや相談には時間をかけてじっくり話を聞きたい。学生の悩みの負担を軽減できながら日常生活、学校生活に活気ある思いを持って日々過ごせるよう共に考えながらも、教員としての慎重な助言、心あるある助言に気を配りたい。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・ピアノや弾き歌いの不安感が強い学生、自分の声にコンプレックスを持っている学生、何の音からファルセットになるのか等の発声技術に関しても常に不安や自信のなさばかりが目立つ学生への丁寧な指導と、自身の声は個性であり勇気を持って出す事へのメンタル面の強化や、学生自身が各々の課題を知り克服できるための指導を強化したい。
- ・学生一人ひとりの性格を早く把握し、各々の個性を大切に教員と学生間の信頼関係を構築しながら指導したい。
- ・学生自身が自分の良さや課題点、好きな面、嫌いな面と、自分を知る事によっ今後の人生にどう繋がるかのディスカッションを設け、その機会も自身の人生経験を話しながら課題点を克服できるように、また良い点はさらに伸びるよう指導したい。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	福井 昭史
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

「生活と音楽」では、昨年度、音楽表現の活動として歌の創作を行い、それなりの成果を得られた。コロナ下の諸般の条件から合唱や合奏の活動は控えていたが、学生の要望や状況を考慮し、指導計画に反映させることも課題である。そこで今年度は創作に加え器楽合奏の活動を加えることとし、教材の開発を行う。「保育と音楽表現」はピアノの技能の向上という実技を主とする授業であり、個人の技能差に対応した教材の選択と指導方法が課題である。とくに1年次生に対しては独自のテキストを作成し指導に当たることとした。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

「生活と音楽」は前年度の授業内容の中の創作活動が効果的であったことから、それに加えてグループによる合奏などの表現活動を加えることとした。ピアノの技能の向上を目標とする「保育と音楽表現」では、個人の技能差に対応した取り組みとして、初心者を対象とするテキストを作成し指導にあたった。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

「生活と音楽」では、歌の創作に加えて全体やグループによる合奏の活動を取り入れた授業を展開した。1年次の「保育と音楽表現」では、本年度作成した初心者用テキストを活用し指導にあたった。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

「生活と音楽」では、アンケートの自由記述欄に10名近くが「楽しかった」と書いており、表現活動を望んでいることがうかがえる。来年度のカリキュラムには合奏の活動を加えるための、学生の実態を把握した上での教材開発が課題である。ピアノの経験のない者、経験の少ない者など初心者を主に担当した1年次の「保育と音楽表現」では、本年度作成した初心者用テキストの活用が、学生の成就感、達成感につながり、学習意欲の向上と技能の向上につながったようである。アンケート結果の数値にもそのことが表れている。今年度の成果と反省を基にテキストの改善が今後の課題である。2年次の「保育と音楽表現」では、従来通りの課題を課していることから学生のレベルによっては難易度が高いものもあり、1年次と2年次のアンケートの数値の差に表れていると考えられ、教材と指導計画の見直しが課題である。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
生活と音楽	21S	4.1	4.2	4.2	4.2	15.0分	3.9		
生活と音楽(2年次開講)	21L	5.0	5.0	5.0	5.0	15.0分	5.0		
保育と音楽表現	21Y	4.3	4.3	4.2	4.4	63.0分	4.0		
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	21Y	4.5	4.5	4.4	4.4	70.6分	4.5		
保育・教職実践演習(幼)	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	45.5分	4.4		
保育と音楽表現	22Y	4.9	4.9	4.8	4.9	66.7分	4.9		
保育実習指導I	22Y	4.5	4.4	4.5	4.5	62.1分	4.4		

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生活と音楽	21S	選択必修	11	78.5	2	18.2%	5	45.5%	2	18.2%	2	18.2%	0	0.0%	0	0.0%
生活と音楽(2年次開講)	21L	選択必修	4	86.8	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現	21Y	選択	11	83.5	0	0.0%	10	90.9%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	21Y	選択	92	77.9	8	8.7%	46	50.0%	30	32.6%	5	5.4%	0	0.0%	1	1.1%
保育・教職実践演習(幼)	21Y	選択	92	89.3	52	56.5%	24	26.1%	11	12.0%	5	5.4%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現	22Y	選択	11	79.5	0	0.0%	6	54.5%	5	45.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

保育実習指導 I	22Y	選択	86	79.5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
----------	-----	----	----	------	---	------	---	------	---	------	---	------	---	------	---	------

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「生活と音楽」では、歌の創作、全体やグループによる合奏などの創造的な活動を取り入れたカリキュラムを構成している。「保育と音楽表現」はピアノの実技を内容とする個々の表現を主とする授業である。そのため、授業時間以外に質問やレッスンを希望し研究室を訪れる学生も少なくない。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度は、今年度の授業の成果と反省をもとに、教材の開発と指導計画の開発を行う。p

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

- ・短期大学にも市民教育の責任が求められていることを念頭に、くわえて保育者にとって重要な資質について、その意義を認識してもらいながら取り組む。
- ・文章力についても、懇切な添削をおこないながら、実践的な場面も想定して課題を検討する。
- ・1年生については模擬保育をおこなう。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・就職後を念頭において実践的な課題も含めて、学生に自由に課題を設定させレポートとして提出させる。
- ・保育者の役割や責任をより広く深く考えてもらうよう取り組む。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・学生に自由に課題を設定させ、レポートとして提出させる。
- ・歴史の映像や高等学校の取り組みの映像をみながら、広く保育者の役割について考える機会を提供する。
- ・レポートの添削を丁寧におこない、文章力の向上をはかる。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- ・自由課題の評価や期間について学生がより納得できるような形を模索する。
- ・レポート添削の時間を確保することがむずかしかった。
- ・映像は好評を得た。
- ・1年生の模擬保育では、初めて1人発表をおこなうことができた。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育者論	21Y	4.1	4.1	4.1	4.1	61.8分	4.2
保育実習指導Ⅱ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	49.7分	4.4
保育実習Ⅱ	21Y	4.4	4.4	4.5	4.5	74.1分	4.5
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	21Y	4.5	4.5	4.4	4.4	70.6分	4.5
保育・教職実践演習(幼)	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	45.5分	4.4
ゼミナール	21Y	4.4	4.4	4.6	4.4	96.0分	4.8
領域「言葉」の指導法	22Y	4.4	4.3	4.4	4.3	83.3分	4.3
保育実習指導Ⅰ	22Y	4.5	4.4	4.5	4.5	62.1分	4.4

科 目 名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育者論	21Y	選択	93	77.5	29	31.2%	18	19.4%	32	34.4%	14	15.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	21Y	選択	92	88.7	57	62.0%	16	17.4%	8	8.7%	11	12.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	21Y	選択	92	79.4	12	13.0%	39	42.4%	27	29.3%	14	15.2%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	21Y	選択	92	77.9	8	8.7%	46	50.0%	30	32.6%	5	5.4%	0	0.0%	1	1.1%
保育・教職実践演習(幼)	21Y	選択	92	89.3	52	56.5%	24	26.1%	11	12.0%	5	5.4%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	21Y	必修	6	73.3	1	16.7%	1	16.7%	3	50.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%

領域「言葉」の指導法	22Y	選択	49	78.1	12	24.5%	11	22.4%	19	38.8%	7	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 I	22Y	選択	86	78.1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

自由課題や映像についてレポートを課した。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ・自由課題について、期間や評価について学生がより納得しやすい形を模索する。
- ・レポート添削について改善をはかる。
- ・1年生の模擬保育では、受講者全てに1人発表の機会を与えることも考える。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	松尾 公則
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

ヒトと生物では、例年通り講義一辺倒にならないように工夫した。講義内容に合わせた本物の動物を見せたり、関連するDVDをながして学生の緊張感が持続するように努めた。講義内容も実際の幼稚園や保育園で使えるようにしたため、学生にとっても受講しやすかったと思う。もっと学生のニーズに合うよう内容を精選していくつもりである。

ゼミナールは、コロナ禍の中としてはそれなりに活動できたと思う。ゼミナール発表会が中止となったので、最後の緊張感を味あわせてやることができなかった。来年こそ、発表会でのいい緊張感を体験してもらいたいと思

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

例年通りの講義内容であるが、学生が参加できる内容を1時間だけは考えたいと思う。それは、ドングリの講義において、「どんぐりころころ」の歌詞の3番を考えようという内容である。いろいろ工夫をしながら実施してみたい。

ゼミナールは、コロナ禍でも活動がやりやすくなっているのので、活動の範囲を拡げていきたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

ヒトと生物では、学生が学びたい内容を聞き、それを中心に実施した。また、幼稚園や保育園で人気のダンゴムシとドングリについては詳しく遊び方や扱い方について講義を実施した。特に、ドングリの講義では、童謡「どんぐりころころ」の歌詞の3番を各自で作詞し、発表する内容とした。

ゼミナールでは、例年より興味関心のある学生が少ないような気がしたので、こちらから積極的に後押しした。活動内容は多くの項目から自分がしたいことを選択させるようにした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ヒトと生物では、学生の取り組みもよくいい感触であったが、全体的な満足度は4.4と低い数字になってしまった。教員の教え方が5.0なのに満足度の低い理由は、教員側に独りよがりであったかもしれない。次年度は、さらに内容を精選しもっと積極的に取り組める内容としたい。

ゼミナールでは、今までになく興味関心の低い学生集団であったため積極的な行動はあまり見られなかった。教師側指導の形になることが多かったが、最後のゼミナール発表会では、各自が見事な発表をしてくれ、学生も教員も満足感を得ることができた。次年度は、積極的な活動ができるよう指導していきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
ヒトと生物	21Y	4.6	5.0	4.8	4.9	10.7分	4.4		
ゼミナール	21Y	4.7	4.7	4.7	4.7	13.3分	4.7		

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ヒトと生物	21Y	選択 必修	15	93.7	13	86.7%	2	13.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	21Y	必修	10	91.0	10	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

特記事項なし

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

例年の活動を踏襲しつつ新しいことにも挑戦していきたい。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	本村 弥寿子
--------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

コロナ感染対策により、保育実践が発表にとどまり、十分に保育のイメージを持つことができない部分があった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

「環境」「表現」の指導法では、コロナ対策を行いつつ保育の実践が行えるような授業改善を試みる。「カリキュラム論」では、学生の負担感を軽減できるような保育指導案作成を工夫する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

「環境」「表現」の指導法における模擬保育では、感染防止を意識した保育内容を考えることを条件の一つとし、各グループで工夫するよう促し、実際に模擬保育を行うようにした。「カリキュラム論」での保育指導案作成は、授業時間内で作成する時間を確保し、教員や友達に相談したら尋ねたりしながら取り組めるよう配慮した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

模擬保育は、こじんまりとした保育が多くなったものの、教材作成やほいくのながれを綿密に考えることに時間を使うことができ、丁寧ですぐに現場で活用できる保育が行われた。保育指導案も、書き込む量が例年より多果ttことから、友達同士意見を交換しながら丁寧に保育をシミュレーションできたものと思われる。ただ、授業内で作成する時間を取ったために、最小限の指導内容となった。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
保育実習指導Ⅱ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	49.7分	4.4
保育実習Ⅱ	21Y	4.4	4.4	4.5	4.5	4.5	4.5	74.1分	4.5
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	21Y	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	70.6分	4.5
保育・教職実践演習(幼)	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	45.5分	4.4
ゼミナール	21Y	4.6	4.4	4.4	4.4	4.6	4.6	84.0分	4.4
領域「環境」の指導法	22Y	4.5	4.6	4.5	4.5	4.4	4.4	85.3分	4.5
領域「表現」の指導法	22Y	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	78.5分	4.4
カリキュラム論	22Y	4.4	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4	110.5分	4.5
保育実習指導Ⅰ	22Y	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5	4.5	62.1分	4.4

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習指導Ⅱ	21Y	選択	92	88.7	57	62.0%	16	17.4%	8	8.7%	11	12.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	21Y	選択	92	79.4	12	13.0%	39	42.4%	27	29.3%	14	15.2%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	21Y	選択	92	77.9	8	8.7%	46	50.0%	30	32.6%	5	5.4%	0	0.0%	1	1.1%
保育・教職実践演習(幼)	21Y	選択	92	89.3	52	56.5%	24	26.1%	11	12.0%	5	5.4%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	21Y	必修	9	76.3	0	0.0%	4	44.4%	3	33.3%	2	22.2%	0	0.0%	0	0.0%

領域「環境」の指導法	22Y	選択	81	78.6	9	11.1%	34	42.0%	25	30.9%	13	16.0%	0	0.0%	0	0.0%
領域「表現」の指導法	22Y	選択	86	79.1	14	16.3%	29	33.7%	32	37.2%	11	12.8%	0	0.0%	0	0.0%
カリキュラム論	22Y	選択	86	75.6	9	10.3%	15	17.2%	36	41.4%	27	31.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅰ	22Y	選択	86	75.6	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

全てのグループ活動で、学生自らが課題を設け自分たちで調査や作成を進めていくアクティブラーニングの形態をとった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

環境や子どもの姿を丁寧にイメージしながら保育を構想したり教材を作成したりできるよう、さらに学生自身が考えたり動いたりできる時間の確保を大切にしたい。その分減ってしまう指導内容は、他の授業（例えば保育実習指導Ⅱなど）を活かして補填していきたい。

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

どの授業も、学生が主体的に取り組めるグループワークを取り入れて実施している。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

「領域表現の指導法」では、講義、グループワーク、製作などを取り入れ、学生にとって領域表現の理解に効果的な授業構成を検討したい。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	池田 光彦
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

2021年度の成績分布および授業評価アンケートの結果、若干数値の差はあるものの2020年度と同様に学生の理解度と授業環境は概ね良好であると思われる。また、殆どの学生において学修のポイントが押さえられており確実に知識が定着したと推察される。しかしながら、一部学生の知識の定着が不十分であり2名の再試験対象者がいた。加えて授業外の学修時間が昨年よりもさらに短くなっていることが課題としてあげられる。以上のことから、良い点は現状を維持しつつ、知識の定着が不十分である学生に対するフォローも引き続き継続するとともに授業外の学修を促す。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

今年度の目標：再試験対象者をできるかぎり出さない。授業時間外の学修時間を適切に増やす。
 改善計画：良い点は現状を維持しつつ、知識の定着が不十分である学生に対するフォローを適時行うとともに、各自の理解度に応じて適切に授業外の学修時間を確保する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

授業実践及び定期試験の設計においては、思考力を身につける(伸ばす)ことを意識した。なぜならば、高校時代に新型コロナの感染拡大の影響を大きく受けた層は、思考力の醸成が不十分である印象があるからである。授業では、できる限り自分の頭で考える癖をつけてもらうことを意識した問いかけをしたり、テストの設計も思考力を問う内容にした。思考力を伸ばすことを目的として、授業外での学修も積極的に促した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度から従来よりも思考力を問うテストを設計した。その結果、前年度よりも再試験対象者が増えたが、本試験で合格した層は、学習内容を十分に理解し、教育目標に到達したと判断できる。また、再試験対象者に対しても、知識の定着を意識した再試験内容にするなどのフォローを行った。授業外学修時間については、全体的に昨年度よりも増えていたことは評価できる。特に昨年度は1時間を超えて授業外学習に取り組んだ者は0%であったが、今年度は全体の約1/4の学生が1時間30分以上の授業外学修に取り組んでいた。しかしながら約40%の学生が授業外での学修に取り組んでいないので、次年度はその層の授業外学修を促す工夫を検討したい。その際に「質問9」の項目を参考にしたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル			教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度					
		4.3	4.7	4.3		4.4	43.8分	4.6								
食品学Ⅱ(食品の機能)	22S	4.3			4.7	4.3		4.4		43.8分	4.6					
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
食品学Ⅱ(食品の機能)	22S	選択	24	78.2	5	20.0%	8	32.0%	3	12.0%	9	36.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニング(以下ALと略記)は「具体的・直接的コミュニケーション」であると捉えている。したがって手法にこだわらず、学生と教員間で具体的・直接的コミュニケーションがなされているのであれば全てそれはALであると考えている。担当授業では、常に双方向型(学生⇄教員)の展開を意識して授業を実施した。そのことによって、学生の理解度などを常にチェックしながら授業進行ができた。オフィスアワーは実施していないが、質問等への対応は授業中に行った。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

今年度の目標：再試験対象者をできるかぎり出さない。授業時間外の学修時間を適切に増やす。
 改善計画：良い点は現状を維持しつつ、知識の定着が不十分である学生に対するフォローを適時行うとともに、各自の理解度に応じて適切に授業外の学修時間を確保する。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	磯崎 美鈴
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度は英語の新聞記事を読む授業であったが、今年度より担当者が変わり、新しくテキストを導入し授業を行った。前年度までの積み重ねがない分、授業の内容や進め方、学生への課題内容は試行錯誤の上、学生の反応を見ながら行なった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

(1) 基本的な英文法を学び直すこと。(2) テキストのEssayや様々な英語記事などを読みながら、語彙力やReading力を強化すること。(3) Writingや英会話などで、自分の考えや意見を英語で表現できるようにすること。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

(1) テキストを用いて、中・高で学習した英文法を学び直し、語彙力やReading力をつけるため、様々な英語のEssayを読んだ。(2) Writingの課題を与えたり、授業内で英会話の練習をやるなど、自分の考えを英語で表現する機会を設けた。(3) インターネットを用いて、自分の興味のある英語記事について紹介する発表を行なった。(4) 日本語字幕なしで洋画を視聴し、内容把握のQuizを解いたり、場面の一部を取り出してDictationにチャレンジした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

シラバスにはテキストを用いての授業計画のみを記載し、各課ごとのWritingの課題や定期試験の実施についても記載していたため、学生にとっての受講のハードルが上がったと思われる。実際に選択した学生は2名しかいなかったのは反省すべき点だと思われる。だが、その学生2名は非常に熱心に取り組み、課題の提出や定期試験への取り組みも素晴らしかった。学生によりよく英語への興味関心を持ってもらうため、後期においては、洋画を題材にした授業とテキストを用いた授業の2段階編成で授業を組み立てた。洋画を用いた授業については、アンケートでも好意的なコメントが寄せられた。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル			教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度					
		5.0	5.0	5.0		4.5	60.0分	5.0								
英語	22S	5.0			5.0	5.0		4.5		60.0分	5.0					
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
英語	22S	選択	2	97.5	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後に質問を受けることもあったが、非常勤講師でオフィスがないこともあり、メールアドレスを交換の上、課題についての質問を受けたり、発表のデータをメールで送ってもらうなどして対応した。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

次年度の担当者ではないため省略。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	井上 靖久
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度は以前に比して取り組みへの意欲は増していると思われる。しかし、自分の身体をより身近なものとして実感することや生理学的・解剖学的なりのかいを伴っていたかは疑問が残るところである。授業レベルに特に問題はないと思われたが、健康の維持と疾病発生に対する基本的理解は不十分であったといわねばならない。この点の改善が次年度への課題である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

講義ノートをより分かりやすく改善した。特に教科書の図譜や表・グラフを講義ノートと連動させて効率的に利用し、理解を深めることに務めるとともに、より自分自身の問題として感覚できることを目指した。このことにより客観的に自分や家族・友人の健康維持について興味を持ってもらいたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

例年感じていることであるが、学生にとっては限られた時間内でこのように広範囲に及ぶ科目内容を網羅することは困難を伴い、加えて難解であり、理解は容易ではない。出来るだけ社会でニュースに取り上げられるようなテーマに沿って、身近なものとして実感できる授業を心掛けたい。また、続く実習授業も意識しながら効果的な講義となるように学生にもいしく図案を行う。特に重要な点に絞って強調することで学生の記憶と興味・関心を引くテーマなどで効果的な授業としたい。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生の自己評価に関しては、内容・レベルに関しては4.1でこの種の科目としてはまずまずであると思われる。これ以上レベルを上げるげること、下げることも適当ではなく、これが選択肢としては止むを得ないと考える。次に教員の教え方は4.2であり、本教員は発声にハンディを抱えている中で、講義ノート作成等、工夫により補えているものとする。しかし、まだ十分ということは出来ないとする。学生の理解度が4.0であり、この科目の特性から考えると満足しなければならないかとも思われるが、もう一段の工夫化できなかったかと考えてもいる。学生の学習意欲や全体的は評価も4.2であり何とか及第点の授業と思われるが、もう一段の工夫を考えたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度							
				4.2	4.2	4.0	56.4分			4.2						
解剖生理学	22S	4.1	4.2	4.2	4.0	56.4分	4.2									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
解剖生理学	22S	選択	24	77.8	2	8.3%	10	41.7%	8	33.3%	4	16.7%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

重要なポイントを与えて、自ら考え、疑問点を挙げるように指導しているがまだまだ反応が少ない。学生の積極的な活動にはまだまだ不十分であった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

今年度は全体的に一昨年よりも改善が見られたが、さらに次年度の講義に向けて、実際の人体に起きるであろう日常の事象を、より分かりやすく実感できる授業にしていきたい。特に感染症や家族などでよくある疾病を例に挙げながらより具体的に例示することで、関心を高めていきたい。出来るだけ、何事も理解することがやる気と学習成果に繋がることを伝えていけるようにさらに工夫をしたい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

昨年度の授業評価報告書では、個人にかかる授業時間が2倍に増えたことから、より深い奏法・表現の指導までできることが課題にあがっていた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ①基礎理論を理解し、読譜・弾き歌いができるようになる。
- ②保育現場の必要な生活の曲、幼児のうたの弾き歌いを表情豊かにできるようになる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

ピアノ演奏指導…子どもの歌と伴奏法を個々のレベルに合うアレンジを選び奏法指導。
歌唱指導…どう体をつかってうたうか、伴奏とうたのバランスを指導する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

アンケート結果より4点台の項目はさほど変化はないので、問題はないと思われる。数的に授業外学修時間が減少している。課題が易しくなったかもしれない。もう少し難しい編曲に挑戦できそうな学生もあえて簡単なものを選ぶ傾向も出てきている。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
保育と音楽表現	21Y	4.5	4.3	4.4	4.3	86.3分	4.3		
保育と音楽表現	22Y	4.5	4.4	4.5	4.6	75.0分	4.3		

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	21Y	選択	9	79.3	1	11.1%	3	33.3%	5	55.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現	22Y	選択	9	76.6	0	0.0%	3	33.3%	5	55.6%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後、分からない箇所の奏法・指番号などを録画し、練習時間に見れるよう配慮した。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

前期に引き続き、練習の順番などを口頭で言っても焦って取り組むので、練習計画と一緒に考え、必ず記入するよう心掛ける。学生自身が持っているレベルより簡単なものを選ぶので、少しずつ音を足してもっとよりよい音楽のサウンドになるよう導きたい。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	内田 誠
--------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

年々ピアノ経験者が少なくなる中、苦手意識を持たないように取り組む。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

自主的にピアノの練習に向かえるようやる気の出るような言葉がけを行う。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

個人ではなく、仲間と共にスキルアップできるよう実施する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
--

前期よりポイントが減少、より分かり易いレッスンの展開が必要。

学生による授業評価アンケートの結果									
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
							人	%								
保育と音楽表現	21Y	4.8	4.8	4.7	4.8	67.5分	4.4									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	21Y	選択	12	82.0	0	0.0%	8	66.7%	4	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

なし

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

苦手意識の克服・やる気の出る言葉がけ及びレッスンを展開。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	浦 明美
--------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

今年度初めて本講座を担当したため、前年度の実績はない。前年度担当者のシラバスを参考にして今年度の目標等を設定した。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 新聞等を教材として活用し、身近なものを話題に英語で情報を発信する力をつける。
- (2) 英語の歌を教材としてリスニング力を育てるとともに、幼児教育の現場で活用しようとする姿勢を育てる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- (1) 新聞の四コマ漫画のテーマを材料に一段落の英文を書き、設問を加えて、一講座一枚の教材を作成した。幼児教育に関連した内容のものを使用し、興味関心を持たせることにより、意欲的に英語学習に取り組むようにした。
- (2) 英語の歌を聴き、歌詞カードを完成することにより、聴き取る力の養成を図った。積極的に取り組むよう馴染みのある歌や子ども向けの歌を選定するようにした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

評価結果については、取組状況と習得度を反映した分布になっているものと思われる。講義後にワークシートを回収して確認し、次の講義で返却するようにしたが、総じて熱心な取組状況であった。身近な題材を用いて興味・関心を引き出す教材作成を心がけたが、習熟度に個人差もあり、難易度の設定が困難だった。授業評価アンケート結果にも教材の内容の難しさが指摘されているので、語彙・文法ともにより一層取り組みやすさを意識するべきであった。習得状況については、定期テストを実施せず、範囲を設定して講義の中で復習テストの形で確認したが、取組状況には個人差が謙虚に感じられた。アンケートから、英語学習を保育の現場で活用したいとの意欲が強く感じられた。この一年間で学習したことが、その思いに応える一助になるよう祈念する。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル			教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度				
		必修	選択	履修者数	平均点	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
英語	21Y	3.7			3.8		3.8		3.8		30.4分		3.7				
科目名	対象学生	必修	選択	履修者数	平均点	評 価											
						S		A		B		C		F		W (脱落)	
						人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
英語	21Y	選択必修		93	83.8	28	30.1%	43	46.2%	20	21.5%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングについては、コロナ禍の中、ペアワークやグループワークを取り入れた活動を控えざるをえなかったこともあり、ほとんど実施できなかった。講義後、復習テストの試験勉強のしかたについて質問があり、講義で使用した教材中の重要語句を中心に書いて覚えるよう指導した。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

次年度の担当なし。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	太田 久美子
--------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

昨年度の授業評価報告書では、基本的な方針はそのまましつつ、より学生にわかりやすい講義を心がけることが課題にあがっていた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 日本国憲法や法律に関心をもち、身近なものとして意欲的に学習することを促す。
- (2) 日本国憲法の意義・概要について学び、市民として必要な日本国憲法に関する基本的理解を修得する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- (1) 昨年度同様、基本的には、毎回、講義の際にレジュメを配布し、講義形式で授業を進めた。もっとも、事前課題を課し、その内容を発表してもらったり、なるべく学生への問いかけを多くして、学生自身に考えてもらう機会を設けるよう工夫した。
- (2) 日本国憲法の問題について興味を持って考えてもらうため、関連する映画を観てもらう等工夫した。もっとも、講義日程の都合や、各項目の説明に割く時間との割合等に鑑み、映画の本数は従前の2本に戻した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

成績分布をみると、昨年に比べ、S評価、A評価及びB評価がそれぞれ増え、C評価の学生数が減少しており、一見すると非常に喜ばしい結果となっている。もっとも、定期試験の問題を例年より容易にしたこと等もあり、学生の理解度が例年よりも増したと安易に言うことはできない。講義中の学生の反応は、積極的な学生とそうでない学生とで大幅に違いがあったように感じている。しかし、講義中積極的に発言等を行っていない学生であっても良好な成績をおさめているため、講義中の学生の反応と理解度とは比例しないものと考えざるを得ず、次年度、学生の理解度をどのようにして推し量るべきか、悩ましいと感じている。アンケート結果については、数値自体は平均値を下回るものがないものの、「早口」という感想が多いため、次年度以降、さらに工夫を重ねる所存である。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
日本国憲法	21Y	3.3	3.3	3.7	3.2	35.6分	3.3									
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本国憲法	21Y	選択 必修	94	75.1	5	5.3%	30	31.9%	30	31.9%	28	29.8%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義後にオフィスアワーを設けており、講義内容に関する質問を受ける機会も複数あった。昨年までに比べ、積極的に質問してくれる学生は少なかった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- 次年度も引き続き、以下を目標として講義を行う。
- (1) 日本国憲法や法律に関心をもち、身近なものとして意欲的に学習することを促す。
 - (2) 日本国憲法の意義・概要について学び、市民として必要な日本国憲法に関する基本的理解を修得する。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	大野 陽子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

一人一人にかけられるレッスン時間が増えたことで、より深い内容を余裕を持って指導できるようになった。知識を「つめこむ」レッスンではなく、学生の質問、疑問と一緒に解決しながら、これからさらに“音を楽しむ”“心で奏でる”ことを目標にして寄り添った指導を心がけていきたい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ①基礎理論を理解し、読譜できるようになる
- ②保育現場での必要な曲(生活の歌)、幼児の弾き歌いを習得する
- ③簡易伴奏法、コード奏法の習得
- ④表現豊かに明るく楽しく歌えるようになる

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

初めての曲に取り組むときは、まず講師の伴奏のもとで一緒に歌い、曲の雰囲気やイメージがわかった上で、学生一人一人の能力、進度に応じてピアノの個人指導を行い、時には何人かの学生を集めてお互いの演奏を聴く場を設けた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

アンケートの結果は、特に問題ないと思う。新入生の中には、ピアノを全く弾いたことがない初心者も多く、基礎的なことを中心に学生の能力や意識に応じて明るい声かけや丁寧なアドバイスを心がけた。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	21Y	4.8	4.8	4.8	4.8	84.0分	4.8
保育と音楽表現	22Y	4.6	4.6	4.6	4.6	115.7分	4.6

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	21Y	選択	9	80.9	0	0.0%	6	66.7%	3	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現	22Y	選択	8	80.5	0	0.0%	4	50.0%	4	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

生活の曲(歌)の伴奏について質問、要望があった。自宅でもしっかり復習できるように演奏する手の動画を撮り、学生に参考にしてもらった。動画を活用することで弾くときの細かい指使いを確認することができた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

学生は皆、インターネットを使いこなし、様々な情報を瞬時に得ることができる。音源や動画などを活用し、曲の雰囲気やイメージをつかむことはとても良いと思うが、それと同時に「自ら考え、想像し、演奏する」力を養ってほしい。情報をうまく取り入れながら、「自ら積極的に学ぶ」姿勢を忘れないように指導者としてもバランスをとりながら声のかけ方、問いかけを工夫して学生に接していきたいと思う。

令和 4 年 後 期	授業評価報告書	氏名	大町 福美
------------	---------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

一定距離の座席となり、授業に集中できている。感じたことを話し合うなどのコミュニケーションの取り方が課題となっていた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

コロナウイルスへの対応も緩和し、座席が自由になったことで、適度な距離間を保ちつつコミュニケーションを取りやすくなったようである。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

一定の距離を保ちつつ自由に着席。歌唱はしない。華道教授の生け込みを少人数ずつ間近で拝見し、技を感じる。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

小人数になったことでより間近で生け込みを見るのが可能となった。生け花が難しいものではなく、より身近にできるものだと感じていただけたと思う。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
日本文化概論	21S	4.7	4.7	4.3	4.7	50.0分	4.7
日本文化概論	22L	4.8	4.7	4.9	4.8	43.6分	4.9

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本文化概論	21S	選択 必修	3	88.7	0	0.0%	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本文化概論	22L	選択	15	79.7	0	0.0%	9	60.0%	6	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実技（自由花生け込み）の際に友人と学び合い、教え合い、高め合う姿が見られた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

欠席後のフォローを忘れないようにしていきたい。実技をより充実させるための授業展開を図りたい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前回の受講生の皆さんは、意欲的に講義に参加される方ばかりでしたので、理解度も高く、成績も全員S評価で終える事ができとてもよかったように思う。前回はオンライン講義で直接会うことが出来なかった学生さん達も、対面講義で画面越しではなく直接質問をしたり、相談をしに来ることができ、計画通りに講義を進行できたと思います。今回も引き続き満足度の高い講義を行えるように準備をして参りました。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 理解度を確認しながら丁寧に講義を進行する。
- (2) 資格取得を希望する受講生が全員合格できる難易度で講義を行う。
- (3) 講義を振り返る際に分かりやすい板書を心がける。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- (1) テキストに沿って診療報酬明細書の書き方について説明する。
- (2) 練習問題を各自で解き、解説を行う形式で授業を進める。
- (3) 一人ひとりの答案を確認し、受講生から頂いた質問は全体にフィードバックし、その都度説明を行う。
- (4) 受講生が自分で考え自分で課題と向き合う時間を取り、解説の時間には質問を受け付ける時間を設ける。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度受講頂いた方々みなさん真摯な態度で講義を受講頂き、資格を取得する目的はもちろんありますが、医療保険のしくみや医療費がどのように請求されているのかを理解し、意欲的に取り組まれていたので、しっかりと診療報酬請求についての技術を身に付けられたのではないかと思います。試験でも結果を出して頂いておりますし、今回の講義では一定の成果をあげられたのではないかと思います。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度						
			5.0	5.0	5.0	4.9	67.5分	5.0								
医療事務論	22L	5.0	5.0		5.0		4.9		67.5分	5.0						
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医療事務論	22L	選択	8	97.3	7	87.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

全体の理解度把握のため質問の時間を区切りごとに取りました。質問を頂いたら受講生全員に共通理解できるようフィードバックを行いました。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

次年度も今年度同様に細やかで丁寧な解説を行い、理解度を確認しながら授業を進行していきたいと思ひます。

令和 4 年 後 期	授業評価報告書	氏名	北山 千代子
------------	---------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

授業評価アンケートでは、書く字が以前より上達したと回答している人がいたので、ある程度成果をあげることができたと思っている。少々プリントが多すぎたかなと思う時もあったので、提出物の量が課題だと思う。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

(1) 今年度も就職の為の履歴書の書き方、生活書 (のし袋・年賀状等) が自信を持って書けるよう指導していきたい。
(2) 提出物が遅い生徒がいたので、中間提出を義務づけたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

(1) 課題プリントに学生が学びやすいようアドバイスを細かく記載し、添削を丁寧にして、次のプリントでは向上心、意欲が出るようにして早めの返却を心がけた。
(2) 今の学生は「書く」機会が少ないので、天声人語の書き写し (文章の構築・漢字の使い方)、文字に関する知識、ペン・筆ペンでの「書く」ことを心がけさせた。俳句を筆ペンで短冊に書き、記念にした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業アンケートの結果は特に問題ないと思う。むしろ、思った以上に評価してもらい感謝している。ただ、受講者数が前年度より減少したのは残念に思った。学生達は真面目に課題に取り組み、概ね提出も良好だったので、今年度も創意工夫をして学生たちが文字を楽しく書くことに積極的に取り組み、上達するように対応していきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
生活と書	21S	4.5	4.0	4.0	4.5	30.0分	4.5
生活と書 (2年次開講)	21L	4.5	4.5	4.5	4.5	35.0分	4.3
生活と書	21Y	4.4	4.6	4.3	4.6	43.3分	4.3

科目名	対象学生	必修 選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生活と書	21S	選択必修	3	81.0	1	33.3%	0	0.0%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
生活と書 (2年次開講)	21L	選択必修	11	82.4	3	27.3%	4	36.4%	3	27.3%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%
生活と書	21Y	選択必修	10	84.9	3	30.0%	4	40.0%	3	30.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・授業後、母親からのし袋を頼まれ、授業で使ったプリントをお手本にして書いたら褒められたと言ってきたので、追加してお手本を書き渡した。
・オフィスアワーはなし

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) なるべく丁寧に添削をし、褒めて書くことの楽しさを教示したい。
- (2) 提出物の締切を2回位に分けて、遅延が少なくなるよう対応を工夫したい。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	金 英泰
--------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

本科目の授業・教育目標は、アンケートの結果および授業成績からも、おおむね到達していると思われる。小テストなどを取り入れ、各自の習得レベルを確認しながら、授業を展開する。ハングルの教科書の内容を各自で声を出して読ませている。一方的に教員の発音を聴くのではなく、学生自らも実際に発音し、教員のアドバイスをその都度、受けている。このような参加型学びが効果を上げていると思われる。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ①授業中に小テストやグループ学習等を導入し、主体的な学びを取り入れる。
- ②文化体験として、韓国の料理作りを体験する。文化祭等で韓国料理を創作・発表など参加型体験を行う。
- ③学生の参加型授業をさらに充実させ、ひとりひとりにきめ細やかな指導を行う。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

語学の授業であることから、読み、書き、話す、聞く、の基本的なリテラシーに重点を置きながらも、楽しく、親しみやすいように、韓国音楽、映画、伝統文化などもとりいれる。また、学生が主体的に調べて発表する形式もとり入れていく。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価によるアンケートの平均では、内容やレベル4.3、教員の教え方4.5、学生の学習意欲4.5、学生の理解度4.2、全体的な満足度4.3であった。
 語学においては、各人の関心度によって、科目の到達目標に対する到達度が違っている。授業の目標に向かって、学生全員が努力できるような教育環境を整える。今後も、導入段階から、各人の理解度を確認しながら、授業を展開していく。授業の具体的工夫としては、テキストの内容について十分に理解できるよう、教員が大きな声を出しながら学生に読み聞かせている。さらに、すぐに学生に復唱させ、正しいハングルの発音ができるまで確認している。また、その都度、大きな文字を板書し、ハングルの発音構造を説明している。今後もこのようにきめ細やかに授業を行っていく。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度	
							人	%
韓国語	22S	3.9	4.3	4.3	3.8	31.6分	4.1	
韓国語	22L	4.6	4.6	4.7	4.5	34.6分	4.5	

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
韓国語	22S	選択	18	95.1	15	83.3%	2	11.1%	1	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
韓国語	22L	選択	13	91.1	12	85.7%	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングとしては、一方的に教えるのではなく、学生の参加型の授業を展開している。具体的には、韓国語の発声を自ら行わせ、正確にできるまで、練習をさせている。また、インターネットを使った教員とのやり取り、課題提出を必須としている。オフィスアワーとしては、毎回の授業後に設定している。授業について、学生から質問等があればその場で詳しく説明し、一緒に演習している。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ①すべての学生が理解できるように、基本的な事項を重点的に授業に取り入れる。
- ②初期段階から、韓国語の書き方や発音をわかりやすく説明し、授業中に小テストを導入する。
- ③グループ学習等を導入し、主体的な学びを取り入れる、韓国語で課題発表など。
- ④文化体験として、韓国の料理作りなど、参加型を体験する。（文化祭等で韓国料理を創作・発表）

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	久林 康子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

昨年度の学生は出席率も高く、授業に参加する態度も概ね良好であった。ペア学習の場面では、協力し合う姿も多く見られ、まとまりを感じた。ただ、なかには学ぶ意欲の低い学生も数人おり、そのような学生への働きかけをどうするか課題が残った。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 学生の実態や課題を十分に把握しながら、どのような力をつけていくか考えながら講義に使用する資料やワークシート類の工夫をする。
- (2) 学ぶ意欲の低い学生への対応を考える。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- (1) 日本語の正しい表現方法を意見文、依頼文等の作成をとおして育成し、語彙力をつけるための小テストなどを随時取り入れた。
- (2) プレゼンテーションによる発表の機会を設け、人前でも臆することなく自己表現ができる機会を設けた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生の苦手とする敬語については振り返りの時間を用いながら重点的に指導を行った。その結果、理解度も高まり日常生活での敬語の使用について自信が持てたと感じる。しかし、コロナ禍にあり、授業に参加できない学生もいて全員がそろう時間が十分にとれなかった。そのため指導計画に修正を加えながら、休んだ学生が困らないように個別指導も行ったが十分とは言えない。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
日本語表現	22L	4.8	4.8	4.9	4.8	67.1分	4.7									
科 目 名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本語表現	22L	必修	17	75.7	1	5.6%	9	50.0%	7	38.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.6%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

プレゼンテーションのテーマ設定や作成までの作業時には、学生の考えを尊重しながら適宜指導を行った。また、大学図書館や公共図書館を積極的に利用し、インターネット等の情報収集に偏らないように指導を加えた。また、読書の有用性にも触れ、読書週間期間中は長崎県の郷土作家の紹介を行うなど、関心をもつよう働きかけた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 学生の実態や課題を十分に把握しながら、どのような力をつけていくか考えながら講義に使用する資料やワークシート類の工夫をする。
- (2) 学ぶ意欲の低い学生や配慮を要する学生への対応をきめ細やかにいき、クラス全体のレベルアップを図る。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	古賀 英俊
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

栄養士として必要な運動生理学の知識を、多数の画像を用いながらも、医学用語を最低限に抑えながら、平易に図解・解説した。しかし、逆にパワーポイントのスライド数が多くなり、理解しにくい点も指摘された。情報量をいかに絞り、目的を達成することができるかが、次年度の課題として残った。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

授業内容をよりシンプルにしながらも、十分な運動生理学の知識を身に着けられるよう、パワーポイントのスライドの内容を改訂した。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

パワーポイントのスライド枚数を前年度の20%減らし、理解度を高めるため、スライドの要所にキーワードを示した。何気ない日常生活上の知識が、実際は重要な医学的知識と関連しており、今後栄養士として活動していくうえで、重要な知識になり得ることを解説した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

難解と思える医学用語は、スライド上でも解説を加えることにより、おおむね授業内容を理解していただいたと判断した。栄養士として、今後も幅広く活動していくためには、常に新しい医学の知識を身に着けていく必要があり、解剖学、生化学、生理学などの、必要な基礎的知識を身に着けていただいたと思っている。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル			教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度			
		必修	履修	平均	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
運動生理学	21S	4.0			4.1		3.9		4.1		18.6分		3.9			
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
運動生理学	21S	選択	23	68.0	0	0.0%	0	0.0%	10	43.5%	13	56.5%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後に2~3の質問はあったが、十分なコミュニケーションを図ることができなかったことは、重要な反省点である。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

諸般の事情で令和4年度で授業から撤退することになった。新たな講師に授業を委託することになる。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	沢 みつ子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1) 話し合い、表現し合う実習ができず、体を動かして学生の気づきを促す点ではうまくいかなかった。
 2) 学外実習としてヒルトン長崎でのテーブルマナー講習が実施でき、実習費は大学側の協力を得られたので、学生の負担も最低限に押さえることが出来た。
 3) 毎回質問をしてくれるよう仕向け奨励した事は、効を奏したと思える。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1) マナーの知識だけでなく、実際の行動体験を通し、学生の気づきを促す機会を増やす。
 2) 課題へのとりくみ方が重要で、宿題の提出方法や受講時間中の態度については、強調して指導し、厳しい態度で講義に臨む。
 3) テーブルマナー実習は、準備、当日の服装と行動全部を合わせてまな一の実践を図る。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1) 前年度の課題を意識し、授業準備が出来た。「マイフェアレディ」のビデオ鑑賞から表現することの大切さを学び取り入れた。コロナ禍にあるため話し合いは省き、レポートの提出とした。
 2) 実例を用いてホスピタリティについての考察をさせた。
 3) サービス接客マナー検定の2～3級過去問題を解説し、様々な分野におけるホスピタリティの実例指導をした。
 4) 会食時の作法について、教室内での座学と模擬練習を行い、洋食フルコースランチのテーブルマナー実習を学外で行った。当日の服装等、工夫するように指導した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価の結果から、今年度の学生の関心や、意識の高さが高かったことから、満足度も高かったものと思われる。しかしながら、自宅での学習がインターネットに頼りがちなことが分かった。自ら学び、自分や他の人との現在の関係に問題意識をもてる姿勢を育てることも必要である。コロナ禍であっても、討議や他人の意見を聴くことがこの科目の課題の一つなのだが、今年度もグループワークやペアでの練習を避けたため、アンケートには、その点の不満が出ていた。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度						
				人	%	人	%	人	%	人	%	人	%			
マナーとホスピタリティ	22L	4.6	4.4	4.7	4.6	81.7分		4.6								
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
マナーとホスピタリティ	22L	必修	17	74.7	4	22.2%	5	27.8%	6	33.3%	2	11.1%	0	0.0%	1	5.6%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1) ホスピタリティの発揮について、考察できるようにする。そのための事例をいろいろな分野から示す。
 2) マナーの実践という点で、学ぶ意欲の低い学生や、実習に消極的な学生が存在した場合、対応を考える。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	七條 和子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1) 病理学に対する学生の意欲度や内容やレベルについて満足度が上がってきた。更に、学生にとって実際の専門用語解説を行う。
 2) 薬学については満足度はある程度に達しているが、やさしい言葉で単元の説明を行う必要がある。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1) 病理学は、単元ごとの目標設定を具体的に決めて説明し、学生が質問し易い場を作る。
 2) 薬学(薬理)基礎は、社会の中で実際に応じたわかりやすい説明を実施する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1) 病理学の単元を一部減らしてまとめ授業を行った。授業への参加および理解度を増すために、身近な例を講義内容に加え、質問をして全員に興味を持てるようにした。
 2) 薬学(薬理)基礎の単元を絞って授業を行った。身近な例を講義内容に組み込み理解度を増すよう話した。授業の終わりに学んだこと、質問事項などを書いた紙を提出してもらい、翌週の授業で回答した。小テストを行った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

成績分布、授業評価アンケートなどを参考にすると
 1) 病理学では、今年度は学生の意欲や理解度が上がった。単元を絞って教えることが学生にはいい結果となっています。
 2) 薬学(薬理)基礎については健康を重視する社会情勢とコロナワクチンを始めとする薬学についての関心の高さが授業に対する興味つながっている。学生の講義内容についてのレベルに個人差があるので更に改善が必要です。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
病理学	21S	4.1	4.1	4.1	4.1	52.9分	4.0		
薬学(薬理)基礎	21L	4.2	4.2	4.1	4.0	45.0分	4.0		

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
病理学	21S	選択	22	78.1	7	31.8%	2	9.1%	13	59.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
薬学(薬理)基礎	21L	選択	19	89.1	15	78.9%	1	5.3%	1	5.3%	1	5.3%	0	0.0%	1	5.3%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングおよびオフィスアワーについては今年度は実施していないので取り入れて見る必要がある。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1) 病理学では、単元を減らしてまとめたわかりやすい言葉を使用して授業を行い、質問しやすい場を作る。
 2) 薬学(薬理)基礎については、講義内容の簡略化と理解を高めるための小テストの改善を行う。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	高木 郁子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

授業2年目ということで、要領が分かり、自分なりの指導方法を模索した。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

茶道全般を理解してもらうには、歴史・陶器・茶道概論等の授業をやりながら、実技と欲張った内容で頑張った。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

日本文化は、目で見ると、実技をやる、実際お茶を飲み季節のお菓子を食べてみるということを大切にしました。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

授業アンケートでは、指導者の気持ちは十分伝わっていると思った。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
日本文化概論	21S	4.7	4.7	4.3		4.7		50.0分	4.7
日本文化概論	22L	4.8	4.7	4.9		4.8		43.6分	4.9

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本文化概論	21S	選択 必修	3	88.7	0	0.0%	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本文化概論	22L	選択	15	79.7	0	0.0%	9	60.0%	6	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

次年度は、西田聖子教授に本人の希望で譲りました。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

① 自分自身日常生活にどのような希望を持っているか、好きなこと、楽しいと思えることは何か嫌なことは何かなど 自分の行動をふり返る、親などに介護 が必要になった時どのような介護を受けたいと希望するかなど自分の言葉で細かく文章化してもらったが、イメージできる説明が不足していたと思われる。
 ② どのような仕事現場でも役に立つと思われる車椅子の操作、杖歩行などの体験を実施したが1年生の為か将来の仕事を考えられていなかった様子だが積極的に取り組んでいた。ただしコロナ感染症を考慮し身体接触を減らしたため十分ではなかったと思われる。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

① 自分自身日常生活にどのような希望を持っているか、自分自身の好きなこと、嫌いなことを考え、人に伝えられるようになって欲しい。そのことによって人の支援を必要とする人の気持ちを理解できる人になってもらいたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

人を支援するときどうしても身体接触必要となる。今後のコロナ感染症の状況を配慮する必要がある。人の生活がどのような行為で成り立っているか、支援を必要とする人が遠慮なく助けを求められるような社会人となってほしいと少しの工夫で身体的不自由さの体験ができる車椅子操作、自走、麻痺を想定した杖歩行を実施した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

アンケート調査の結果から満足が得られていると思われるとくに学修方法として授業時間以外にグループワーク活動
 資料集め、他の学生と授業内容について話したとあること、介護の授業に関心をもっていたとの自由記述などから今回の授業の内容を今後も継続して行くこととする。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル			教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度					
		必修	履修	平均		人	%	人	%							
介護・救急法	22L	4.5			4.8	5.0		4.6		26.3分	4.6					
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

一つ一つの介護（車椅子操作、介護される体験など）体験を大切にしながら授業を実施する。
 廊下などを使用するためほかの授業の妨げにならないよう大声を出さないなどの注意を呼びかける必要がある。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度は、初めて講義を行ったこともあり、学生の関心の程度や理解力を把握することに時間を要した。意欲的に受講してくれた学生が多く、「医学」や「保健」というワードに少しでも抵抗をなくして、身近に感じてもらったのではないと思う。しかしながら、授業資料の作り方や説明の仕方には改善の余地があり、また学生と話す機会が十分に設けられず、授業構成と学生とのコミュニケーションに課題が残った。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 学びやすい、使いやすい資料作りに努め、学生の学習意欲をそがないようにする。
- (2) 提出物に対して返却時フィードバックを行い、学びを深めるサポートを行う。
- (3) 学生とコミュニケーションを多くとり気軽に意見を言い合える関係作りに励む。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- (1) 学生アンケートでいただいた意見を元に、授業資料に書き込む枠を大きくし、文字数も大きくした。スライドに写真を用いる際は、1スライドに複数枚載せるのではなく、1スライドに1枚の写真を載せることとした。
- (2) 「医学一般」では各人がまとめた疾患について、全員が発表する機会を設けそれに対して必要であれば補足をしながら、学びを共有する機会を設けることができた。「子どもの健康と安全」では前年度同様、小テストを実施した後にすべての問題について解説を行った。保健だよりの作成もしてもらい、素晴らしいお便りがたくさん提出された。授業スケジュールの関係からそれらを学生に紹介することができなかった。
- (3) 幼児教育学科の学生とは授業の前後で話す機会が度々あった。一方でビジネス医療秘書コースの学生とはコミュニケーションをとる機会が少なかったと感じる。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

授業資料については以前よりも画面や写真の見えにくさ、文字の書きにくさ等に関する意見が減っており、改善できたのではないかと感じる。写真や動画を多く取り入れることも心がけたが、そうすることで興味・関心を持ち抵抗感なく授業に参加してくれたように思う。学期途中に行ったアンケートでは説明が分かりにくいとの意見もあったので、専門用語をよりかみ砕いてゆっくりと分かりやすい説明を行い、馴染みやすい科目となることを意識して講義を行っていききたい。

「子どもの健康と安全」で行った保健だよりの作りでは、想像していた以上に学生が積極的に取り組んでくれたため引き続き行っていききたい。今年度は6回目の講義で課題を出し、7回目の講義で回収したため全+A21体へのフィードバックや学生同士での共有の機会が持てなかった。お互いに作成したものを読み合うことでよりよいお便りの作成につながると思われるため、来年度の課題としたい。

学生とのコミュニケーションに関しては今年度も十分であったとは言い難い。学生と講師の関係性が授業への意欲に影響を与えるとも考えるため、積極的なコミュニケーションを図り、学生に身近な存在となれるよう今後も努めていきたい。

「子どもの健康と安全」のアンケートにおいて、試験に授業プリントに載っていない問題が出たとの意見をいただいた。口頭では重要であることとして伝えていたがそのような内容はしっかりプリントにも記載するよう改善したい。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
							満足度	満足度								
医学一般	22L	4.8	4.8	4.6	4.6	45.9分	4.8									
子どもの健康と安全	22Y	4.5	4.5	4.5	4.5	66.1分	4.5									
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医学一般	22L	選択	17	88.5	7	41.2%	9	52.9%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの健康と安全	22Y	選択	86	84.7	33	38.4%	33	38.4%	12	14.0%	8	9.3%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「医学一般」では2つの疾患名について調べる課題を課した。それぞれが関心を持った疾患を挙げ、詳細までまとめあげることができていた。全員に発表してもらったが、それだけではなく、今後は質問や意見を言い合える場面を設けたい。「子どもの健康と安全」で課した保健だよりを作成する課題も、共有する場面がなく、主体的に参加する場面が十分でなかった。オフィスアワーは設けていないが、授業後に質問をしてくれる学生もあり、話をする事ができた。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- (1) 学生が取り組んだ課題に対して、コメントをするだけでなく、他学生と共有し、意見を言い合う機会を設けることで、理解をより深められるようにする。
- (2) 学生と積極的にコミュニケーションを図り、講義科目への興味を引き出せるようにする。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	寺谷 陽子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

自分の課題把握、今何をすべきか課題に合った練習方法を習得し積極的に学習を進める学生もいた。まだピアノに苦手意識をもつ学生は練習時間の必要性を理解するところからが課題としてあり、その為に根気強く練習に取り組む姿勢を身につけることが課題としてあがっていた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

(1) 次回授業までの取り組みを学生と確認し、課題を共有し課題達成を実現させる。
 (2) 保育者としての意識を持たせるよう、身なり、挨拶、自発的に出来るようにさせる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

(1) 個々人の様子をみながら、練習方法を提示し少しでも出来たという達成感を味合わせるように取り組んだ。ピアノだけでなく、普段の学生生活の課題も含め、学生の状況をなるべく把握出来るよう話せる雰囲気づくりも心掛けた。
 (2) ピアノを弾く時にはただ演奏するのではなく、常に子ども達が周りにいると想定し、子どものお手本になるよう意識づくりをさせた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

積極的に課題に取り組む学生も多く見られた。課題達成のためにピアノ練習確保が少ない学生もみられ、意欲を引き出す事の難しさを感じた。テストまでの計画、自分の現状把握をすることの大切さを感じてもらい、共に成長していきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
保育と音楽表現	21Y	4.6	4.8	4	44.4%	5	55.6%	108.8分	4.8
保育と音楽表現	22Y	4.5	4.6	2	22.2%	2	22.2%	86.3分	4.3

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	21Y	選択	9	80.8	0	0.0%	4	44.4%	5	55.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現	22Y	選択	8	63.9	0	0.0%	2	22.2%	2	22.2%	4	44.4%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

課題の達成に向けて、学生同士でのコミュニケーションが見られ、自発的に今後の取り組みについて話し合いがなされ、意欲が感じられた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

自発的に動きやすいような雰囲気づくりを心掛ける。学生自身も自分の課題把握。そのために必要な練習時間の確保、練習方法を身につけ、課題達成のために努力するよう促す。保育者としての意識も常にもてるよう挨拶、身なりも普段のレッスンじから意識させていきたい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

テキスト以外のオリジナル楽譜、またはオリジナルに近い楽譜に取り組む学生も数人いたが、初心者はテキストだけで精一杯で行き詰っていた。また、今の隔週授業の弊害として、講習を欠席し補講も受けなかった場合、学生によっては、4週間前の復習にばかり時間を取られ、進歩を進められないという悪循環に陥っていた。よって、学生の意識向上と意欲維持するためには、今の隔週授業を見直さなければならない。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1年生は、演奏表現とともに、音楽理論についても理解を深められるように努めたが、十分な成果が上がったとは言えなかった。2年生は、楽曲数こそ減ったものの、効果的な演奏表現技術にまで注意を向けさせることができたのは良かった。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
保育と音楽表現	21Y	4.4	4.4	4.6		4.6		86.7分	4.4
保育と音楽表現	22Y	4.2	4.2	4.3		4.5		110.0分	4.2

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	21Y	選択	9	78.8	0	0.0%	4	44.4%	5	55.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現	22Y	選択	8	66.4	0	0.0%	2	22.2%	4	44.4%	2	22.2%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

空き時間に相談や補習指導を行った。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	奈良 望
--------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

自分が生を受け日々生活をしている日本社会についてより客観的に理解することを目指した授業である。自らを知るために他者について学ぶことが大切であると気づくところから始まる授業である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

具体的には日米の歴史比較から授業を進めていくが、江戸時代が始まった時には植民地としてのアメリカさえ存在していなかったことに驚いてもらいたい。このことから日本が古い国であることが感じられるようになる。米国以外にも適当な比較の例を紹介していきたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

例年ペーパーテストではなく課題によって評価をしている。課題としては発表とペーパーを課してきたが今年度は一人が時間を空けて自分で決めたテーマで二回発表してもらった。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

上記のように課題を発表二回にしてみた。この変更の一番大きなメリットは全員の発表を全員で聞くことができる点にあると考える。個々のテーマの決め方や発表のパフォーマンスなど学生同士で影響を受けあうことになり、教師の指導以上に学生の気づきは大きいと感じる。

学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル			教員の教え方		学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間		全体的な満足度			
比較文化	21L	4.5			4.4		4.3		4.4		31.3分		4.3			
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
比較文化	21L	必修	24	80.9	1	4.2%	15	62.5%	8	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

コロナによるバススケジュールの変更等の要因もあったと思うが、授業が一時間目にあったことから遅刻欠席者が通常よりも多かった。学生は授業後も他の授業があるためオフィスアワーの設定は難しかったが課題としてプレゼンテーションを一人二回ずつ設けたので学生個々との接触には問題はなかったと思う。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

次年度は受講生数が若干減る予定である。授業形態を変更することは予定していないが学生数が減る分個々の学生との接点を増やすことを意識したい。

令和 4 年 後 期	授業評価報告書	氏名	南條 恵
------------	---------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

授業の内容について、必要と思われる事項をすべて網羅しようとする学生との理解が不十分であることが多かった。国家資格に基づく専門職として必要な知識、技能を身に付けるためにどのような授業の内容、方法がふさわしいのかを模索した。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

分かりやすい資料を作成し、授業がスムーズに進むような準備をおこなった。話し方、学生への問いかけの仕方などをその都度振り返り、工夫した。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

教科書を細分化したパワーポイントを作成し、スライドに添って授業を展開していく。オンライン授業では、パワーポイントのスライドに添って音声を入力しYouTubeとしてweb上にアップしていった。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生の「わからない」にていねいに応えようと思い、授業の毎回ごとにリアクションペーパーを導入し、授業についての質問や感想を書いてもらった。しかし、質問の内容が授業のなかの話の聞き漏らしなど、基本的なことが多く授業の中身を深めるところまでにはいかなかった。授業の単位が国家資格取得にそのままつながるので、しっかりと知識を身に付けてもらいたいと考えていたが、この程度で大丈夫なのかと心配になるくらい学力の低さに悩まされた。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
子育て支援	21Y	4.2	4.1	4.1	4.2	42.3分	4.2		
保育実習指導Ⅱ	21Y	4.4	4.4	4.4	4.4	49.7分	4.4		
保育実習Ⅱ	21Y	4.4	4.4	4.5	4.5	74.1分	4.5		
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	21Y	4.5	4.5	4.4	4.4	70.6分	4.5		
保育・教職実践演習(幼)	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	45.5分	4.4		
ゼミナール	21Y	4.1	4.1	3.7	3.9	60.0分	4.3		
子ども家庭支援論	22Y	4.1	3.9	4.3	3.9	63.0分	3.9		
乳児保育Ⅰ	22Y	4.1	3.8	4.3	3.9	63.6分	3.9		
保育実習指導Ⅰ	22Y	4.5	4.4	4.5	4.5	62.1分	4.4		

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子育て支援	21Y	選択	92	78.4	0	0.0%	42	45.7%	50	54.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導Ⅱ	21Y	選択	92	88.7	57	62.0%	16	17.4%	8	8.7%	11	12.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	21Y	選択	92	79.4	12	13.0%	39	42.4%	27	29.3%	14	15.2%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	21Y	選択	92	77.9	8	8.7%	46	50.0%	30	32.6%	5	5.4%	0	0.0%	1	1.1%
保育・教職実践演習(幼)	21Y	選択	92	89.3	52	56.5%	24	26.1%	11	12.0%	5	5.4%	0	0.0%	0	0.0%

ゼミナール	21Y	必修	10	76.5	1	10.0%	5	50.0%	3	30.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
子ども家庭支援論	22Y	選択	86	69.4	6	6.9%	16	18.4%	12	13.8%	53	60.9%	0	0.0%	0	0.0%
乳児保育 I	22Y	選択	86	68.6	3	3.5%	7	8.1%	25	29.1%	51	59.3%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習指導 I	22Y	選択	86	68.6	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

--

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

--

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	林 徹
--------------------	----	-----

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

特段、大きく改善すべき点はなかった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

慢心しないように、受講者の理解英氏をたしかめながら進める。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

小演劇のシナリオづくりを積極的に手助けした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
--

特筆すべき課題は見当たらなかった。

学生による授業評価アンケートの結果									
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
							人	%								
経済学	21L	4.3	4.4	4.3	4.2	32.9分	4.3									
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
経済学	21L	選択 必修	21	82.4	8	38.1%	9	42.9%	4	19.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

対戦の機会を十分に設けて、できるだけ総当たりになるように工夫して、小演劇のシナリオづくりを手助けした。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

感染症の影響による対面授業に対する抵抗が気がりである。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

不合格者を出さぬことが、目標の一つであったが、今年度出してしまい残念であった。今後出さぬよう努力したい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ① 商工会議所主催簿記検定の受験者および合格者を多く出すこと。
- ② 時間不足を補うため課題で補填したい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ① 簿記検定の変更に対応するため、本年度も最新の教科書を使用し講義したい。
- ② 各帳簿の記入法や財務諸表のの記入法はプロゼクターを使用し講義したい。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生の授業評価アンケートの結果、学生も真剣に講義に取り組んでいたようで良かったと思う。真面目に授業に参加していても、どうしても理解できない者もいて残念であった。そういう学生をどう指導していくか課題である。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
簿記会計学2	22L	4.5	4.5	5.0	4.0	90.0分	4.5									
科 目 名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
簿記会計学2	22L	選択	6	69.0	0	0.0%	2	33.3%	1	16.7%	2	33.3%	1	16.7%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

特にありません。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ① 簿記の基本をしっかり理解させ、多くの学生に3級を合格させる。
- ② 授業での理解度を確認するうえで、課題を出し、チェックをしっかりしたい。

令和 4 年後期 授業評価報告書	氏名	宮崎 美保
------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生をいかに活動的に授業に取り組みさせるかが課題である。学生自ら考え動き楽しみながら向上していき、課題習得するために授業内容をさらに工夫する。講義は、実体験やわかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。
- (2) さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫して授業を行う。
- (3) 講義は、実体験やわかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- (1) 実技科目活動内容をわかりやすく習得しやすくするために段階的項目をせっていた。さらに目標を各グループであげて、授業の終わりに自己評価するようにさせた。
- (2) 活動意欲が沸くような課題を出したり、特に苦手な実技科目に対して意欲の低い学生には、動きの分析をしてわかりやすい説明・実技指導をしながら、一緒に楽しみながら課題克服を目指した。
- (3) 講義では、実体験などわかりやすい内容で理解しやすく説明をして興味を持たせることを目指した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度は、意欲的に楽しみながら取り組む学生が多く、実技を見せながら説明したり、動きの分析をすることによりスムーズに課題克服し、習得できていた。学習記録で目標を決めさせることでより活動意欲高まり、授業終わりに活動の振り返りをし自己反省をすることで次の授業の意欲につながった。コメントを書くことでより良いアドバイスをすることもでき、学生ともさらにコミュニケーションが取れるようになった。グループ活動を増やした結果、学生同士のコミュニケーションも上手にとることができ互いに教え合いながら習得をしていく姿も見ら自ら工夫して活動できるようになった。講義も学習記録を書かせることで理解度を確認できた。実技の得意不得意でゲームの勝敗に偏りができているのでアダプテーションゲームを取り入れて苦手な学生ももっと楽し

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
生涯スポーツ	22S	4.6	4.8	4.8	4.8	31.2分	4.5		
生涯スポーツ	22L	4.9	5.0	4.9	4.9	33.5分	5.0		

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生涯スポーツ	22S	選択	24	79.6	4	16.7%	9	37.5%	10	41.7%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
生涯スポーツ	22L	選択	17	80.1	4	23.5%	6	35.3%	5	29.4%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後にコミュニケーションが上手く取れないと相談があり、一緒に対応を考え前期の終わり頃にはみんなと楽しく授業を受けれるようになった。学習記録をチェックすることで上手くコミュニケーションが取れないで困っている学生などに気づくことができ対応できた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。
- (2) さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫して授業を行う。
- (3) 講義は、実体験やわかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。
- (4) アダプテーションゲームを取り入れて実技をもっと楽しめるようにする。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	宮崎 洋子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

授業の形態が個人授業であるため、1人の学生に接する時間が長くなり具体的に細かい部分を何度も反復することができて学生自身が自分で勉強するやり方を見つけ出す手助けになったのではないかと考えます。しかし、その一方で部分的になりやすく結果的に時間の配分が難しく感じられた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

学生1人1人の進路状況をまず把握し、テキストを活用し、それぞれに合ったものを選びながら進めていきたい。特に初心者は、テキストを使用するに当たって丁寧に説明しながらここに合わせた取組が必要。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

学生と相談しながら無理のないレベルから始める。
より意欲的に進められ、身近に感じている内容を積極的に取り入れる。
課題が難しいと思われる場合は、学生に合った基準まで引き下げ、完成度が高くなるように練り上げていきたい。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートを見てみると、1、2年生ともどの項目も前期よりも数値上がっている。特に全体的な満足度が2年生の「3.7」から「4.7」に上がっているのは目を見張るものがある。
授業の最後に連弾があり、やりぬいたという満足度があったのではないと思う。課題としては、曲選定が難しく、いつも悩むところである。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
保育と音楽表現	21Y	4.7	4.7	4.9	4.9	111.4分	4.7		
保育と音楽表現	22Y	4.5	4.3	4.5	4.5	100.0分	4.7		

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	21Y	選択	8	80.9	0	0.0%	6	75.0%	2	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現	22Y	選択	7	77.1	0	0.0%	3	42.9%	3	42.9%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業中、気になったことや質問等があったら場合、昼休みを利用して実施。また、いつでも対応できるようにLINEを活用している。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

時間の制約がある中で学生が目標、目的を持って歩んでいける世に小さなステップを大切にしていきたい。そうすることによって見えてくる学生の変化にちゆしし授業がより良い者に出来上がるように努力していきたい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

学内でのピアノ試験に向けての指導とともに保育の現場に臨んだ際に活用できる内容についても伝える努めた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

音楽の基礎的な事の指導と同時に豊かな音楽的表現についても指導する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

1. ピアノ、歌唱ともに技術の向上と同時に音楽的表現の充実を図る。
2. 歌唱において、一般的な声楽という形よりも保育の現場において園児に伝わる歌い方（子どもの歌に適した発声法）及び表現を指導する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ピアノの技術において、初心者の方が大半であったが、全員レッスンに向かう姿勢には熱意を感じ取れた。今後も卒業までの短い時間の中で効率よく、卒業後現場での実践に活用できるような指導に努めた。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
保育と音楽表現	21Y	4.7	4.7	4.0		4.3		75.0分	4.3
保育と音楽表現	22Y	4.9	4.9	4.7		4.9		64.3分	4.9

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	21Y	選択	8	82.3	0	0.0%	7	87.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現	22Y	選択	9	73.6	0	0.0%	0	0.0%	9	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後や空き時間に質問に訪れる学生には極力時間を提供した。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

1. 音楽の基礎的な内容について、学生が理解しやすいように指導を。
2. 表現するということに慣れ、その表現する喜びを現場で園児に伝えられるよう指導したい。
3. 実務で活用できる実用的な音楽力、表現力を修得できるよう指導したい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

- ・ 基本的な楽典の理解
- ・ テクニックの向上
- ・ 弾き歌いへの興味

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・ 個人に合った教材とスピードに配慮する
- ・ コード奏法との関連

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・ 楽典の基礎強化
- ・ 練習方法の徹底
- ・ コードを自ら工夫する

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- ・ 指使いを自ら決め、効率の良い練習方法を身に付けさせる
- ・ 学習意欲に沿った教材とスピード

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	21Y	4.0	4.0	4.2	4.2	84.0分	4.2
保育と音楽表現	22Y	5.0	5.0	5.0	5.0	111.4分	5.0

科 目 名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	21Y	選択	8	80.0	1	12.5%	3	37.5%	4	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現	22Y	選択	7	82.4	1	14.3%	4	57.1%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

学生のモチベーションへの配慮

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・ 学生の実力・モチベーションに合わせる
- ・ 弾き歌いへの興味を導く

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	山浦 直子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

昨年度の授業評価報告書では、“楽しく学ぶ”を目標としていた。今後もモチベーション高く、そして持続させることを常に念頭に置き進めていく。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1. 学生一人一人の現実と向き合い、毎回のレッスンで課題の目的を明確に伝える。
2. コロナもだいぶ落ち着いてきたので、“弾き歌い”を積極的に取り入れる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1. “歌うように弾く”をテーマに、右手と歌が一体となるように導く。
2. コードとの関わりを常に意識できるように導く。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
--

学生による授業評価アンケートの結果は、以前よりも学生の「学習意欲」、「理解度」の評価が上がっていたことは嬉しく感じた。来年度も一人一人に細やかな心配りが行き届くように「心に届く指導」を目指し、最善を尽くしたい。

学生による授業評価アンケートの結果									
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度							
				人	%	人	%			人	%					
保育と音楽表現	22Y	4.8	4.8	4.7		4.8		108.0分	4.8							
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	22Y	選択	11	82.5	2	18.2%	5	45.5%	4	36.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実施していない。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

「コード奏法」との関連をより徹底させる。
 「現場で役に立つピアノとは」との問いかけを忘れず、その実現を目指す。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	吉井 学
--------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

昨年度の授業評価報告書では学生の理解できるスピードで講義を行うことが課題にあった。また、話すスピードも遅くするよう課題に上がっていた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

1年生の生化学では話すスピードを遅くする。質問はいつでも受けるようにする。2年生の生化学実習科目では学生の実習スピードに準じた実験実習を行うように改善する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

1年生の生化学では話すスピードを遅くし、質問を促す講義を行った。また、メールによる質問はいつでも受け付けるようにして学習機会を促した。2年生の生化学実習科目では学生の実習スピードに準じた実験実習を行うように改善し、実験の目的や理論等を学生の理解できる文言を確認しながら詳細に説明して実施した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

2年生の実験科目では学生の学習意欲が良くなったが、学生の理解度は十分な結果とは言えない。もともと科学系の興味は低い学生が多かったので興味を高めることができたのは一歩前進と判断できる。残る課題は理解度を高めることである。一足飛びにはできないので1年時から補習を実施して理解度を高めたい。1年生の生化学では高校での科学系の文言の理解が出来ていない学生が存在するので、文言の理解を進める補習を実施していきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科 目 名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
生化学実験	21S	3.9	4.1	4.3	3.8	100.0分	4.2		
生化学 I	22S	3.2	2.9	4.0	2.7	73.8分	3.0		

科 目 名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生化学実験	21S	選択	23	74.9	6	26.1%	2	8.7%	4	17.4%	11	47.8%	0	0.0%	0	0.0%
生化学 I	22S	必修	24	77.4	8	32.0%	2	8.0%	4	16.0%	11	44.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

メールを利用した質問に対して即刻返答することで学習意欲を高めるようにした。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

事前に教科書を読まない学生や科学用語に疎い学生のために授業後に補習による対応をする。

令和 4 年 後 期 授業評価報告書	氏名	吉田 智子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

昨年の授業評価報告書では、現場ですぐに使えるような演奏力をつけるため具体的な練習方法を伝える、そして練習するモチベーションを継続させるために練習回数などを具体的に提示してみることが課題に挙がっていた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

(1) 現場ですぐに使えるように具体的な練習方法を伝える。(2)モチベーションを継続させるために具体的な提示をする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

(1) 演奏が難しいところはその場で練習させることを心がけた。(2) コミュニケーションをとりながら練習の大切さを伝えることを心がけた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

昨年度同様、コロナ禍の中マスク着用でしたので、歌唱指導が思うようにできなかったと反省している。コミュニケーションは前期より取れていたと思うので練習の大切さを少しは伝えられたと思う。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲		学生の理解度		授業外学修時間	全体的な満足度
				人	%	人	%		
保育と音楽表現	21Y	4.6	4.6	4.4		4.6		60.0分	4.6
保育と音楽表現	22Y	4.6	4.6	4.4		4.6		90.0分	4.1

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育と音楽表現	21Y	選択	9	71.4	0	0.0%	5	50.0%	3	30.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現	22Y	選択	8	77.1	0	0.0%	2	25.0%	6	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後、質問がある場合はその場でできる限りしている。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

(1) 演奏力を高めるために練習の大切さを意識させる。(2) 練習するモチベーションを継続させるためにもっとコミュニケーションをとるようにする。